

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB24A010)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) グループの編成を行う。
2回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
3回	調査内容をまとめる 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する。
4回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
5回	よいプレゼンテーションについて説明する プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
6回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
7回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
8回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解しておくこと(標準学修時間120分)
2回	課題を考えてくること(標準学修時間120分)
3回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集を行いながら調べ学習をしておくこと (標準学修時間120分)
4回	スライドの構成を考えてくること(標準学修時間120分)
5回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること(標準学修時間120分)
6回	プレゼンテーションの練習を行うこと(標準学修時間120分)
7回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること(標準学修時間120分)
8回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる(E)。 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる(E)。 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる(E)。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価(合格基準60)	・ワークシート(25%) ・実際のプレゼンテーションを評価する(50%) 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト(25%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表(リハーサルも含む)の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、文章表現法基礎編A・B、学びの基礎論A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。

参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F (松尾研究室) E Mail : matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義はプレゼンテーション基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	心理学 B (FB24A020)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ
2回	認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る
3回	発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える
4回	生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する
5回	自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る
6回	対人関係の形成、対人魅力について知る
7回	集団における人の心について学ぶ
8回	認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)
2回	前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)
3回	これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)
4回	前回の授業内容を復習することと、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)
5回	自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)
6回	前回の授業内容を復習することと、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)
7回	前回の授業内容を復習することと、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)
8回	授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分)

講義目的	認知心理学、発達心理学、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。
キーワード	認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ
成績評価(合格基準60)	各講義後に提出する小レポート(35%)、講義内容の理解についての最終評価試験(65%)により、総合的に成績を評価する。
関連科目	心理学A、社会心理学、教育心理学
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」/山脇圭輔/北樹出版/ISBN:978-4-7793-0462-0
参考書	「ベーシック心理学」/二宮克美編/医歯薬出版株式会社/ISBN:978-4-263-42223-6 他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	初回の授業で伝達する
注意・備考	特になし
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24B010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
2回	「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
3回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」を指導する。
4回	「将来したい事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
5回	「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
6回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「私のターニングポイント」を指導する。
7回	「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
8回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1回	「将来したい事」アウトラインを作成すること。 「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
2回	「将来したい事」文章を作成すること。 「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
3回	「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
4回	「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
6回	「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
7回	総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
8回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準60)	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版

参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24B020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる (E)。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる (E)。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる (E)。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる (E)。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる (E)。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
成績評価 (合格基準60)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。

	1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、文章表現法基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業は、アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	文学B (FB24B030)
英文科目名	Literature B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
2回	「みずうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
3回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
4回	「トーニオ・クレーガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
5回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
6回	ドイツの叙情詩について概説する。
7回	ドイツ文学のまとめを行う。
8回	最終評価試験と、今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第十二章に目を通して、詩の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	重要事項を把握して、試験の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。
キーワード	文学、社会
成績評価(合格基準60)	最終評価試験80%、レポート20%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB24B040)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)
5回	・太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5) ・グループワークのためのグループ分け
6回	グループワーク1(グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
7回	グループワーク2(グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
8回	まとめ,最終評価試験

回数	準備学習
1回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間90分)
8回	今までの事を反芻し、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価(合格基準60)	グループワークでの発表を60点満点、最終評価試験を40点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	心理学 B (FB24B050)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ
2回	認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る
3回	発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える
4回	生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する
5回	自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る
6回	対人関係の形成、対人魅力について知る
7回	集団における人の心について学ぶ
8回	認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)
2回	前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)
3回	これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)
4回	前回の授業内容を復習すること、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)
5回	自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)
6回	前回の授業内容を復習すること、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)
7回	前回の授業内容を復習すること、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)
8回	授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分)

講義目的	認知心理学、発達心理学、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。
キーワード	認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ
成績評価(合格基準)	各講義後に提出する小レポート(35%)、講義内容の理解についての最終評価試験(65%)により、総合的に成績を評価する。
関連科目	心理学A、社会心理学、教育心理学
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」/山脇圭輔/北樹出版/ISBN:978-4-7793-0462-0
参考書	「ベーシック心理学」/二宮克美編/医歯薬出版株式会社/ISBN:978-4-263-42223-6 他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	初回の授業で伝達する
注意・備考	特になし
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教 B (FB24B060)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。
2回	古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。
3回	古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。
4回	日本の伝統的倫理を説明する。
5回	現代の倫理 (1) 死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。
6回	現代の倫理 (2) 自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。
7回	現代の倫理 (3) 脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。
8回	前半: 最終評価試験 後半: 試験の解答と解説

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、日本人の考え方にも大きな影響を与えた、古代インド、中国宗教の倫理を中心に、主として東洋の倫理思想を学ぶ。そのうえで、現代の私たちに直接かかわりのあるいくつかの問題について、倫理的な視点から多角的に考察できるようになることが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。

	哲学者・宗教家の倫理に関する思考を追体験し、日常生活に役立てることができる。
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学
成績評価（合格基準60	成績評価と基準は明確に記入。出席回数は点数化しない。「レポートと試験により評価する」、「授業態度により評価する」、「平常点により評価する」といったあいまいな表現は不可。例）提出課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	倫理と宗教A、哲学
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24C010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
2回	「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
3回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」を指導する。
4回	「将来したい事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
5回	「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
6回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「私のターニングポイント」を指導する。
7回	「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
8回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1回	「将来したい事」アウトラインを作成すること。 「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
2回	「将来したい事」文章を作成すること。 「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
3回	「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
4回	「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
6回	「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
7回	総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
8回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準60)	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版

参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24C020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「日本を知る(1)」について説明する。
2回	「日本を知る(2)」について説明する。
3回	「日本を知る(3)」について説明する。
4回	「読書のすすめ」について説明する。
5回	「自己啓発(1)」について説明する。
6回	「自己啓発(2)」について説明する。
7回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8回	「敬語の使い方」について説明する。 最終評価試験

回数	準備学習
1回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
2回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
4回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
5回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間120分) 今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べることに取り組む。 3. グローバリゼーション(国境がない)の状況において、外国人に、日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「自己啓発」に取り組むことができる。 2. 「読書感想文」が書けるようになる。 3. 「日本の世界遺産」(現在21件)の内容・特色を理解し、外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・目的意識 ・基礎知識 ・実行力
成績評価(合格基準60)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業における「提出課題」「小テスト」+ 時間外における「提出課題」 ・ ・ ・ 50% 2. 最終評価試験 ・ ・ ・ 50%

	1.と2.の総計で、得点率60%以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「60歳からの健康人生」/執筆者代表 崎重敏幸/ 株式会社 ライフ・サポート/ ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」については、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切後の2週間後の授業の初めに返却する。 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24C030)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる (E)。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる (E)。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる (E)。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる (E)。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる (E)。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
成績評価 (合格基準60)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。

	1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、文章表現法基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業は、アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB24C040)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	別テーマによる二本目プレゼンテーション準備 をする
2回	要点を押さえたスクリプトに改良 をする
3回	説得力のある実証的なスクリプトに改良 をする
4回	無駄のない効果的なパワーポイント資料に改良 をする
5回	インパクトのあるパワーポイント資料に改良 をする
6回	リハーサル・プレゼンテーション をする
7回	最終プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	基本構想・アイデアを準備すること
2回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
3回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
4回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
5回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
6回	最終プレゼンテーション準備 すること
7回	最終プレゼンテーション準備の仕上げること
8回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	PowerPointを用いながらプレゼンテーションにおける非言語的要素の重要性を理解した発表を行うことができることを目指す。(パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、アピールポイントの軸のぶれない内容構成、など)
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
成績評価(合格基準60)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終提出(20%)の総合評価
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB24C050)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)
5回	・太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5) ・グループワークのためのグループ分け
6回	グループワーク1(グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
7回	グループワーク2(グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
8回	まとめ,最終評価試験

回数	準備学習
1回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間90分)
8回	今までの事を反芻し、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価(合格基準60)	グループワークでの発表を60点満点、最終評価試験を40点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	哲学B (FB24C060)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。
2回	インド哲学 (1) インド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。
3回	インド哲学 (2) インドの「六派哲学」と現代へのその影響を説明する。
4回	中国哲学 (1) 諸子百家の思想を説明する。
5回	中国哲学 (2) 朱子学と陽明学を説明する。
6回	イスラーム哲学 (1) キンディーとファーラービーの哲学を説明する。
7回	イスラーム哲学 (2) イブン・スィナーとガザーリーの哲学を説明する。
8回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、インド、中国、およびイスラーム文化圏の哲学を通して、代表的な東洋哲学をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。各文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。

	過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
成績評価（合格基準60）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） 授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学A、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【月4水4】(FB24D010)
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二* (なかにししゅんじ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能をはたしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	国民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および国民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ボポロ事件」を取り上げることにする。
11回	民主主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準のの区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由に焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18じょうの「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の捜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることにする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。
2回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
5回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分。
9回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
10回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
11回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
12回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分。
13回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
14回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
15回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習しておくこと。60分。
16回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法問題解決の思考力を身につけること。
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
成績評価（合格基準60）	レポート（20点）、小テスト（20点）、最終評価試験（60点）
関連科目	法学
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2 ;『法学六法』/ 石川明・池田真朗等編/信山社
参考書	テキスト『法学第3版』（大学教育出版、2015年）等
連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題（小テスト）をミシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24D020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「日本を知る(1)」について説明する。
2回	「日本を知る(2)」について説明する。
3回	「日本を知る(3)」について説明する。
4回	「読書のすすめ」について説明する。
5回	「自己啓発(1)」について説明する。
6回	「自己啓発(2)」について説明する。
7回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8回	「敬語の使い方」について説明する。 最終評価試験

回数	準備学習
1回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
2回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
4回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
5回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間120分) 今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べることに取り組む。 3. グローバリゼーション(国境がない)の状況において、外国人に、日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「自己啓発」に取り組むことができる。 2. 「読書感想文」が書けるようになる。 3. 「日本の世界遺産」(現在21件)の内容・特色を理解し、外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・目的意識 ・基礎知識 ・実行力
成績評価(合格基準60)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業における「提出課題」「小テスト」+ 時間外における「提出課題」 ・ ・ ・ 50% 2. 最終評価試験 ・ ・ ・ 50% <p>1. と 2. の総計で、得点率60%以上を合格とする。</p>
関連科目	・プレゼンテーション基礎編

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」については、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切日後の2週間後の授業の初めに返却する。 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24D030)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	序論・本論・結論の作成 4 をする
2回	800字小論文の完成・提出 をする
3回	別テーマによる二本目論文の作成 をする
4回	アウトライン添削・修正 をする
5回	800字小論文作成 をする
6回	800字小論文添削・修正 をする
7回	800字小論文の完成 をする
8回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	800字小論文、結論の作成 すること (標準学習時間60分)
2回	800字小論文の仕上げ すること (標準学習時間60分)
3回	アウトラインの復習 すること (標準学習時間60分)
4回	アウトライン作成 1 すること (標準学習時間60分)
5回	アウトライン作成 2 すること (標準学習時間60分)
6回	800字小論文作成 すること (標準学習時間60分)
7回	800字小論文仕上げ をすること (標準学習時間60分)
8回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認 をすること (標準学習時間60分)

講義目的	小論文、レポートなどの作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を知り、認識し、そして実現すること (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章の構成をあやつる「アウトライン」の重要性を理解し、それに基づいて800字の小論文を独力で完成できること。
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
成績評価 (合格基準60)	課題添削・修正作業 (40%)、中間提出 (40%)、最終提出 (20%) の総合評価
関連科目	プレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。(自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す)
試験実施	実施する

科目名	文学B (FB24D040)
英文科目名	Literature B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
2回	「みずうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
3回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
4回	「トーニオ・クレーガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
5回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
6回	ドイツの叙情詩について概説する。
7回	ドイツ文学のまとめを行う。
8回	最終評価試験と、今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第十二章に目を通して、詩の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	重要事項を把握して、試験の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。
キーワード	文学、社会
成績評価(合格基準60)	最終評価試験80%、レポート20%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教 B (FB24D050)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学ぶ。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
2回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。ベンサム生涯、基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義 “善と快樂”
3回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学んでいく。キーワード：トロッコケース、9.11
4回	幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査
5回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展
6回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
7回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
8回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度を高めるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書のページを読むこと。33 - 38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2回	教科書28 - 29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3回	教科書30 - 32ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4回	これまでの講義内容の復習しておくこと。（標準学習時間30分）
5回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
6回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
8回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。特に、現代社会の根本的な価値観を学び、歴史の中でとらえなおし、科学技術をはじめ、豊かさを価値とする現代社会に対するクリティカルな視点を身につけていく。（教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与）
達成目標	現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。特に現代社会を規定する思想を学ぶことにより、自分たちが生きている社会を相対化する力を身につけ、柔軟で自由な思考ができるようになることを目標とする。
キーワード	倫理、現代社会、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由、自己愛、カント
成績評価（合格基準60）	提出物15% 講義関与度35% テスト（最終評価試験）50%
関連科目	哲学
教科書	プレップ倫理学 / 柘植尚則 / 弘文堂 / 4335150490
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	マーケティング (FB24D060)
英文科目名	Marketing
担当教員名	大藪亮 (おおやぶあきら), 張セイ (ちょうせい)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部(18~), 工学部(18~), 総合情報学部(18~), 生物地球学部(18~), 教育学部(18~)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進めを説明する。マーケティング誕生の背景や発展、および役割について説明する。 (全教員)
2回	具体的な事例をもとに、製品戦略について説明する。 (全教員)
3回	具体的な事例をもとに、価格戦略について説明する。 (全教員)
4回	具体的な事例をもとに、流通戦略について説明する。 (全教員)
5回	具体的な事例をもとに、プロモーション戦略について説明する。 (全教員)
6回	顧客との関係づくりに関するマーケティングについて説明する。 (全教員)
7回	企業間関係のマネジメントについて説明する。 (全教員)
8回	1回~7回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	マーケティングとは何かについて調べておくこと (標準学習時間90分)
2回	マーケティング誕生の背景について復習すること 過去のヒット商品の優れている点について考えておくこと (標準学習時間90分)
3回	製品マネジメントのプロセスについて復習すること 自分の携帯電話の料金プランを確認しておくこと (標準学習時間90分)
4回	価格設定の考え方について復習すること コンビニの出店戦略について調べておくこと (標準学習時間90分)
5回	チャネルの種類や特徴について復習すること 広告の重要性について調べておくこと (標準学習時間90分)
6回	プロモーションミックスについて復習すること なぜ企業はポイントカードを発行するのかについて調べておくこと (標準学習時間90分)
7回	顧客関係のマネジメントについて復習すること 企業同士の取引において重要なことについて考えておくこと (標準学習時間90分)
8回	1回~7回までの内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間90分)

講義目的	マーケティングに関する基礎的な概念や理論的枠組みについて理解することを本講義の目的とする。そのために、具体的な事例を多く取り上げ、実際の企業のマーケティング活動と理論を結び付けることにより、マーケティングに関する基礎的な理論やその背景、マーケティング活動について理解を深めていく。(教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与する)
達成目標	本講義では、企業のマーケティング活動やそれに対する消費者行動に興味・関心を持つこと、また、マーケティングに関する基礎的な概念や理論を理解することを達成目標とする。
キーワード	マーケティング、消費者行動

成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	サービス社会のマーケティングと経営/村松潤一・山口隆久編著/同文館/2018年夏頃刊行予定
参考書	適宜，指示する。
連絡先	A1号館7F 大藪研究室、張研究室
注意・備考	(1) 試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。(2) 課題（レポートや小テスト）に対するフィードバックは、講義中に行うこととする。(3) 講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	身近な物理学 (FB24D070)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8回	これまでのまとめと最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.63~68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.69~70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.71~77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.78~83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.84~88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。(標準学習時間60分)
6回	1~5回までの復習をすること。教科書p.89~92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.93~105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.63~105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	物理学とは、物の理(ことわり)即ち自然現象の原因を実験的・理論的に解明する学問である。この授業では、授業中に行う多くの演示実験の観察を通して、我々の身のまわりで起こる「電磁気」と「光」に関わる自然現象を物理的に説明する能力を身につけることを目的とする。高校での物理公式の知識を必要とせず、できるだけ数式の計算を行わずに、実験の観察と論理的な思考により物理的方法論を修得せしめることに努める。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	<p>演示実験や実験ビデオの観察を通して、身近な自然現象を一般化して物理法則を見出す過程を学ぶ。</p> <p>物理学の諸法則が確立してきた歴史的過程を知ることにより、先人たちの物理的な思考方法を学ぶ。</p> <p>自然現象を簡潔に説明するために、種々の物理量を定義することの必要性とその意味を理解する。</p> <p>身近な物理現象に関する物理パズルの解答・質疑応答を通して、生きた物理学の知識を身につける。</p>

キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、 スネルの法則
成績評価（合格基準60	授業中に行う小テストを50点満点としてその評価点をx点とし、最終評価試験を(100-x) 点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未 満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、学内の丸善(株)教科書販売所で販売する。
参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088- 3 / みすず書房
連絡先	masuo12345nakagawa@gmail.com
注意・備考	高校における物理学の知識の有無は問いませんが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通 して物理学を学びますので、必ず毎回出席してノートに記録してください。物理学は特に論理的思 考を重視する学問ですから、試験においても自筆ノートは持ち込み可とします。以下の学科は、 本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場 合は受講を制限する可能性がある：基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知 能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。「物理学基 礎論 ・ 」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 ・ 」の履修生および 履修予定学生は「身近な物理学 ・ 」の履修を避けること。 ・ テストについては、次回の講義日に解答・評価などのフィードバックを行う。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む） は禁止する。 ・ 必要に応じて、講義開始時に講義資料等を配布する。
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教 B (FB24E010)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学ぶ。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
2回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。ベンサム生涯、基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義 “善と快楽”
3回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学んでいく。キーワード：トロッコケース、9.11
4回	幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査
5回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展
6回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
7回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
8回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度を高めるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書のページを読むこと。33 - 38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2回	教科書28 - 29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3回	教科書30 - 32ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4回	これまでの講義内容の復習しておくこと。（標準学習時間30分）
5回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
6回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
8回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。特に、現代社会の根本的な価値観を学び、歴史の中でとらえなおし、科学技術をはじめ、豊かさを価値とする現代社会に対するクリティカルな視点を身につけていく。（教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与）
達成目標	現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。特に現代社会を規定する思想を学ぶことにより、自分たちが生きている社会を相対化する力を身につけ、柔軟で自由な思考ができるようになることを目標とする。
キーワード	倫理、現代社会、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由、自己愛、カント
成績評価（合格基準60）	提出物15% 講義関与度35% テスト（最終評価試験）50%
関連科目	哲学
教科書	プレップ倫理学 / 柘植尚則 / 弘文堂 / 4335150490
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB24F010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	寺田盛紀 (てらだもりき)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部, 情報工学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	大学生に求められるコンピテンシー ・寺田の各国比較調査を紹介しつつ、理工系学生の特に必要な資質について理解する。
2回	技術者の養成 ・工業高校、農業高校のカリキュラム ・大学・高専のカリキュラム
3回	技術者のキャリア ・事務系・ホワイトカラー系従業員との比較でみた企業内キャリアの形成 (移動)
4回	日本の産業と技術の課題：その1 ・IT化のつぎに必要な技術開発はなにかについて諸論議を概説する。
5回	前回のテーマのプレゼンテーション
6回	日本の産業と技術の課題：その2 ・産業の二重構造 (中小企業) の問題と技術開発について考える。
7回	前回のテーマのプレゼンテーション
8回	以上の総括的講義及び最終評価試験

回数	準備学習
1回	寺田の調査報告の印刷物の事前精読。(90分)
2回	日本の工業 (工学) 教育の現況に関する資料を1つ以上探し出し、持参する。(90分)
3回	技術者の生涯キャリア (職場配置や転職) について身近な人から取材し、ノートしておく (持参し、発表できるようにしておく)。(90分)
4回	自動運転技術、スマートシティ技術、エコテクノロジーの現況について調べておく。簡単に報告できるように、半頁くらいに纏めておき、提出する。(90分)
5回	簡易なレポートを作成しておく。(120分)
6回	中小企業の技術開発の現況や事例を紹介できるよう、調べておく。提出する。(90分)
7回	プレゼン資料を作成しておく。(90分)
8回	以上で作成し、使用した講義ノート、資料、追加文献等の整理を行って置き、試験に臨む。(120分)

講義目的	技術者というあいまいな用語の使用法を確定した上で、技師もしくはテクニシャンとしての技術者の生成、養成、求められる資質、中でも学習・研究の方法、技能習得の方法、基礎力で重要な資質について講義し、理解することが的である。(教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する)
達成目標	技術者論に必要な知識の習得はもちろん、それを得るための資料収集等を通じて、研究調査過程やプレゼンの初歩的スキルを得ることを目指す。
キーワード	基礎力、技術者倫理
成績評価 (合格基準60)	合格基準は60%である。100%の内訳は、最終評価試験80%、提出課題20%とする
関連科目	工学概論科目
教科書	指定せず
参考書	杉本・高橋著『技術者の倫理』(丸善出版)、日本能率協会『技術者教育の研究』(同)
連絡先	キャリア支援センター
注意・備考	受講者数の上限は70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB24F020)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫/「文章スキルとプレゼン力」(緑版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【火2金2】(FB24G010)
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治(さとうもとはる)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	日本国憲法の特質についての講義を行う。 [内容] 憲法の特質、憲法の基本原理と個人の尊重
2回	人権総論についての講義を行う。 [内容] 人権の種類、人権の享有主体、基本的人権の限界
3回	精神的自由(その1)についての講義を行う。 [内容] 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由
4回	精神的自由(その2)についての講義を行う。 [内容] 表現の自由(意味・内容・限界)
5回	経済的自由についての講義を行う。 [内容] 職業選択の自由、転居・移転の自由、財産権の保障
6回	人身の自由(刑事手続上の諸権利)の講義を行う。 [内容] 適正手続の原則・無罪推定の原則、被疑者・被告人の諸権利
7回	受益権、社会権、参政権についての講義を行う。 [内容] 受益権、社会権、参政権
8回	法の下での平等(平等権)と包括的基本権についての講義を行う。 [内容] 法の下での平等、生命・自由・幸福追求権
9回	統治機構総論についての講義を行う。 [内容] 三権分立の意味と構造
10回	国会についての講義を行う。 [内容] 国会の地位、組織と活動、国会議員の特権、国会の権能、議院の権能
11回	内閣についての講義を行う。 [内容] 行政権と内閣、内閣の組織、内閣の権能と責任
12回	裁判所についての講義を行う。 [内容] 司法権、裁判所の組織と権能、司法権の独立、違憲審査制
13回	財政および地方自治についての講義を行う。 [内容] 財政の基本原則、財政監督の方式、地方自治の意義、地方公共団体の権能
14回	天皇および平和主義についての講義を行う。 [内容] 天皇の地位と性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
15回	憲法改正についての講義を行う。 [内容] 改正の手続、改正の限界
16回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
1回	このシラバスを熟読し、授業内容全般を確認しておくこと。初回授業で講義の進め方と履修上の注意をするので必ず参加すること(やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。(標準学習時間60分)
2回	前回の授業内容の日本国憲法の特質について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の授業内容の人権の種類、享有主体、基本的人権の限界(特に公共の福祉の概念)について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回の授業内容の思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回の授業内容の表現の自由について、その意味・内容・限界について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回の授業内容の経済的自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回の授業内容の人身の自由について、憲法31条から導き出される基本原則と、33条以下に規定されている被疑者・被告人の諸権利について、その内容と重要性を正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	前回の授業内容の受益権、社会権、参政権について、それぞれの内容を正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	前回の授業内容の法の下での平等について、判例の審査基準と実際に平等原則違反とされた事案を正確に理解し、復習しておくこと。また、新しい人権・権利として判例で認められたものとしてのどの

	ようなものがあるか正確に理解しておくこと。ブログの配布資料で次回授業の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
10回	前回の授業内容の三権分立の意義について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	前回の授業内容の国会の地位、組織と活動、権能について正確に理解し、復習しておくこと。特に両議院の差異や衆議院の優越についてきちんと整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概略を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	前回の授業内容の内閣について、特に内閣総理大臣の権限と内閣の権限の違いをきちんと整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	前回の授業内容の裁判所について正確に理解し、復習しておくこと。特に司法権の限界、違憲審査制についてきちんと整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	前回の授業内容の財政および地方自治について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	第14回授業で扱った集団的自衛権の憲法上の問題について、その内容を正確に理解し、自身の考えをまとめておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	第1回～第15回の授業内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で憲法を学ぶというと、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持たれるかもしれない。しかし考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国・社会の中で生活しているわけである。ということは、その憲法について知ったり考えたりすることはある意味、この日本という国で生活する者にとっての責務であるともいえるのである。この授業では、日本国憲法についての基本的な知識や考え方について具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一緒に考えてもらいたいと思っている。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
達成目標	日本国憲法に関する基本的な知識や考え方を習得すること。具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できるようになること。
キーワード	日本国憲法、最高法規、(基本的)人権、個人の尊重、三権分立
成績評価(合格基準60%)	授業内小テスト・レポート(計4回、各10%) + 条文プリント(10%) + 最終評価試験(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	法学
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館(旧24号館)4階研究室
注意・備考	指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること(無断で授業を受けないように)。 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用不可)。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。 憲法条文プリント(これについては初回授業で説明する)は、第5回授業までに提出すること。 テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料(レジュメ)を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること(ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する)。 小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24G020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる (E)。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる (E)。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる (E)。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる (E)。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる (E)。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
成績評価 (合格基準60)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。

	1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、文章表現法基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業は、アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	考古学 B (FB24G030)
英文科目名	Archaeology B
担当教員名	白石純(しらいしじゅん)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	旧石器時代前半について実例を挙げながら説明する。
2回	旧石器時代後半について実例を挙げながら説明する。
3回	縄文時代草創期、早期、前期について実例を挙げながら説明する。
4回	縄文時代中期、後期、晩期について実例を挙げながら説明する。
5回	弥生時代前期、中期について実例を挙げながら説明する。
6回	弥生時代後期について実例を挙げながら説明する。
7回	古墳時代前期について実例を挙げながら説明する。
8回	古墳時代中期・後期について実例を挙げながら説明する。 これまでの講義内容についての総括をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	日本の旧石器時代について、発見・時代・生活文化を図書館等で調べておくこと。(120分)
2回	日本の旧石器時代について、石器・製作技法・狩猟方法を図書館等で調べておくこと。(120分)
3回	縄文時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)
4回	縄文時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器を図書館等で調べておくこと。(120分)
5回	弥生時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)
6回	弥生時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性を図書館等で調べておくこと。(120分)
7回	古墳時代について、年代・古墳の種類と埋葬施設を図書館等で調べておくこと。(120分)
8回	古墳時代について、住居・生活様式を図書館等で調べておくこと。(120分)

講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのか。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように解説する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について解説し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解させる。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解させることで、考古学が人文学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを学習することを目的とする。(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。)
達成目標	理系。文系を問わず、さまざまな知識、学問に応用できるように発想や資料分析法の仕方の基礎知識を獲得することを目標とする。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100点%)により成績を評価する。
関連科目	なし
教科書	使用しない。
参考書	考古学ゼミナル/江上波夫/山川出版社:考古学の基礎知識/広瀬和雄/角川選書
連絡先	21号館6F 白石研究室 086-256-9655 shiraish@big.ous.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	ボランティア論 B (FB24G040)
英文科目名	Introduction to Volunteer B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキストについて解説する。ボランティアの特徴について考察する。
2回	ボランティアの動機と事例を検証する。
3回	ボランティアと報酬について考察する。
4回	ボランティアの動機と事例を検証する。
5回	ボランティアの動機と事例を検証する。
6回	NPO (特定非営利活動) について解説する。
7回	NPOの現状と問題点について考察する。最終評価試験について説明する。
8回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスに目を通し、ボランティアの特徴について考えておくこと。復習: ボランティアの特徴についてまとめること。(標準学習時間60分)
2回	予習: ボランティアの持つ可能性について考えておくこと。復習: 講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)
3回	予習: ボランティアの無償性について考えておくこと。復習: ボランティアの報酬についてまとめること。(標準学習時間60分)
4回	予習: 国内外の諸問題について考えておくこと。復習: 講義で取り上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)
5回	予習: ボランティアをめぐる困難について考えておくこと。復習: ボランティアと現代社会についてまとめること。(標準学習時間60分)
6回	予習: NPOの基本を理解しておくこと。復習: NPOの定義についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習: NPOの現状について考えておくこと。復習: NPOをめぐる諸問題をまとめること。(標準学習時間90分)
8回	予習: ここまでの講義内容を整理しておくこと。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	ボランティアを多角的な視点から分析してその特徴と可能性を理解するとともに、NPOの現状や役割についても考える。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
達成目標	ボランティア活動の特徴と可能性を理解した上で、関連する領域も含めた現状について自身の考えを述べるができる。
キーワード	ボランティア NPO 社会貢献
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習に参加し課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	ボランティア論 A、比較文化論
教科書	世良利和 / 「ボランティアへの視線 - 映画を手がかりにして考える」 / 蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 受講者は必ずテキストを購入すること。 3. ボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 7. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB24G050)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやし のりあき*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10. 本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24H010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる (E)。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる (E)。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる (E)。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる (E)。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる (E)。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
成績評価 (合格基準60)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。

	1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、文章表現法基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業は、アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間B (FB24H020)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
3回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
4回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
5回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
6回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
7回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
8回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。(教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する)
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の間を関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価(合格基準60)	ミニレポート提出を含む講義への取り組み=40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B
教科書	世良利和/「企業と人間」/蜻文庫(2018年9月刊行予定)
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5. 70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	教養演習 B (FB24H030)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(1)
2回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(2) 発表用レジュメ作成についての説明をする。
3回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(3)
4回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
5回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(2)
6回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(3)
7回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(4)
8回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(5) 最終評価試験を実施する。 試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	この演習は次の2つを柱とする。 1) 教員側が選んだ新聞記事を読みながら議論をする。 2) 各受講者が関心を持つ問題(分野を問わない)についての簡単な個人発表を行なう。 上記のような作業を行なうことにより、思考能力、表現能力の向上を目指す。 「教養演習B」では受講者側が選んだ資料を主に扱う。 (教養教育センター 単位認定の方針Eにもっとも強く関与。)
達成目標	様々なテーマに対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行なえること。
キーワード	比較文化、異文化理解、討論
成績評価(合格基準)	60 最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	教養演習A、比較文化論A、比較文化論B
教科書	使用しない。(プリントを配布する。)
参考書	適宜指示する。
連絡先	B1号館2階 高池研究室
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者数の上限を50名とする。 ・最終評価試験終了後解説を行なう。 ・プリントの配布は授業中に行なう。 ・授業中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FB24H040)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原宥* (えばらゆたか*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション - 「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方(市民性の発揮)について解説する。
2回	行政への市民参加(1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。
3回	第2回講義の続き - ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。
4回	行政への市民参加(2) - 地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。
5回	第4回講義の続き - 電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。
6回	司法への市民参加 - 日本の裁判員制度とその課題について解説する。
7回	第6回講義の続き - 死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。
8回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)
3回	ワークライフバランスとは何か考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)
5回	あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題(問題)には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」の内「行政」と「司法」との関わりを取り上げます。題材は、女性の社会進出問題、地球環境、裁判員制度等の現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。(教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%で評価し、60%以上を合格とする。。
関連科目	社会と人間A
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

試験実施

実施する

科目名	文学B (FB24H050)
英文科目名	Literature B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
2回	「みずうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
3回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
4回	「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
5回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
6回	ドイツの叙情詩について概説する。
7回	ドイツ文学のまとめを行う。
8回	最終評価試験と、今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第十二章に目を通して、詩の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	重要事項を把握して、試験の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。
キーワード	文学、社会
成績評価(合格基準)	60 毎回のミニレポート40%、最終評価試験60%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
参考書	適宜指示します。
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。 ・ミニレポートについては次の時間に印象的なものを紹介する形でフィードバックをすることがある。 ・講義の撮影・録音・録画は一切認めない。 ・教科書以外に参考する資料については授業中に配布する。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB24H070)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけることを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補ってしておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価(合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24I010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる (E)。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる (E)。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる (E)。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる (E)。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる (E)。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
成績評価 (合格基準60)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。

	1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、文章表現法基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業は、アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	キャリア形成講座 B (FB24I020)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	寺田盛紀 (てらだもりき)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【後半のオリエンテーションと導入としてのワークショップ2】 第8回につづき、職業観・キャリア観の形成についての知識をえるために、「キャリア・アンカー」論を講述し、実際にテスト体験を行う。
2回	【第6章前半 高校生・大学生の職業観と職業選択 その1】 キャリア・アンカー論で見たような「職業観(価値観)を希望進路や希望職業の生成との関連で、高校生・大学生に対する調査データを通して観察・理解する。入試や家庭教育など、教育・文化的要因の重要性が説明される。
3回	【第6章後半 高校生・大学生の進路・職業の選択 その2】 進路や職業の選択が入学試験制度に強く作用される仕組み、また「キャリア・モデル」によって促進されたり、妨げられたりすることについて調査データを通して理解する。
4回	【第7章 職業観とその変化・形成の仕組み】 たしか進路や職業の選択は、生徒・若者のキャリアイベント(学習や仕事などの体験)に左右されることにみついてデータを通して理解する。
5回	【第8章 職業観と生活時間】 高校生の24時間を日本、ドイツ、韓国の生徒達を例にして、比較してみる。国や文化の差違、共通性を理解する。
6回	【第9章 大学生のキャリア形成】 なぜ大学生のキャリア形成が問題になるのかということについて、おもに文部科学省関連の議論を追跡し、理解する。
7回	【第10章前半 成人のキャリア形成】 企業で働く日本の成人のキャリア形成の仕組みを「日本的な労働市場」(年功制や終身雇用)との関係で理解する。
8回	【第10章後半 成人のキャリア形成支援システム】 企業内の労務や教育のシステムの存在について知り、就職後の自己のキャリアデザインに備える。同時に、これまでの理解度の最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	<準備> 自分が将来の職業を選択する上で、大切にしたいこと(価値)をメモし、授業に持参する。(60分)
2回	ドイツ、アメリカ、インドネシア、中国、韓国のいずれかの国高校について予備知識を持っておく。(120分)
3回	自分の「キャリア・モデル」(プラスの意味とマイナスの意味と)について、考えておく。(60分)
4回	ネット検索でよいので、職業観のアンケート調査結果の具体例を発表(答えること)ができるようにしておく。(60分)
5回	教科書の8章の生活時間調査用紙を参考に、自分の週間24時間を書いてみる。(60分)
6回	ネット検索で、2011年の中教審・キャリア教育・職業教育に関する答申に目を通しておく。(ネットダウンロード可)(60分)
7回	「年功制」、「終身雇用」、「定期配置転換」について、先輩か親と対話(電話)し、事前に実態の一端について知識を得ておく。(60分)
8回	15回すべての講義ノート、教科書を総ざらいしておく。(120分)

講義目的	この講義は「キャリア形成」ということについての心理学、社会学、経済学、教育学などの知識を伝え、それを自分の体験や取材・事前学習との関連で理解することを目指す。合わせて、高校や大学での仕事や職業についての自己理解を体験し、探索的経験を促すことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	各回の講義概要に期した理解目標、事前学習で指示している学習・取材・予備調査、その記録の週間、スキルを身につけること。
キーワード	キャリア形成、キャリア開発、キャリア教育、キャリアデザイン、進路、職業選択、職業観、高校生、大学生、成人職業人
成績評価(合格基準60)	合格最低基準60%、最終評価試験(80%)、提出課題(20%)
関連科目	「企業と人間」、「生徒・進路指導論」(教育学部)
教科書	寺田盛紀『キャリア教育論 - 若者のキャリアと職業観の形成』(学文社、2016年第2刷、学内丸善社取り扱い)
参考書	その都度指示する

連絡先	キャリア支援センター
注意・備考	受講者数の上限は50名とする。
試験実施	実施する

科目名	身近な数学 (FB24I030)
英文科目名	Mathematics closely related to our daily lives II
担当教員名	濱谷義弘 (はまやよしひろ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部(18~),工学部(18~),総合情報学部(18~),生物地球学部(18~),教育学部(18~),経営学部(18~)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	不思議な数たち
2回	ダビンチ・コード・黄金比 -
3回	お見合いの戦略
4回	総合演習とその解説をする。
5回	恋愛の数理
6回	ゲーム理論
7回	少子化問題・結婚の数理 -
8回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書第2、3章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
2回	教科書第4、5章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
3回	教科書第7章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
4回	第3回の講義ノートの復習を行うこと(標準学習時間:2時間)
5回	教科書第12章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
6回	教科書第14章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
7回	第5、6回のノートを見ておくこと(標準学習時間:1時間)
8回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間:3時間)

講義目的	本講義では、日常生活での出来事や社会の仕組みに関連する事柄に内在する数学的論理および数学的思考を紹介する。また、身近に起こる事柄をどのように数理モデル化するかについても紹介する。それらを通して、各種数理モデルを理解することが目的である。(数学・情報教育センターの学位授与方針 A に強く関与する)
達成目標	各種の数理モデルを理解するための知識を身につける。
キーワード	フィボナッチ数列, 黄金比,
成績評価(合格基準60%)	総合演習(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	なし
教科書	数理と社会(身近な数学でリフレッシュ)/河添 健/数学書房/978-4-903342-82-5
参考書	指定しない
連絡先	B05号館3階 濱谷研究室 (オフィスアワーは mylog を参照のこと)
注意・備考	・以下の学科は内容が専門に近いので受講を許可しないことがある。応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科。・また, 100名を超える場合も受講制限することがある。・総合演習に対するフィードバックは, 講義内で解説を行うこととする。・講義中の録音/録画/撮影は原則認めないが, 特別の理由がある場合事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FB24I040)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原宥* (えばらゆたか*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション - 「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方(市民性の発揮)について解説する。
2回	行政への市民参加(1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。
3回	第2回講義の続き - ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。
4回	行政への市民参加(2) - 地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。
5回	第4回講義の続き - 電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。
6回	司法への市民参加 - 日本の裁判員制度とその課題について解説する。
7回	第6回講義の続き - 死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。
8回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)
3回	ワークライフバランスとは何か考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)
5回	あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題(問題)には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」の内「行政」と「司法」との関わりを取り上げます。題材は、女性の社会進出問題、地球環境、裁判員制度等の現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。(教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%で評価し、60%以上を合格とする。。
関連科目	社会と人間A
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

試験実施

実施する

科目名	社会と人間B (FB24I050)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法の説明をする。 * 「世界経済」「民族と宗教」に関する自己知識のレベルを把握し、予習/復習計画の立案を行う。
2回	* 世界経済の全体像を概説する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
3回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的を説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
4回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
5回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を学ぶ。
6回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
7回	* 「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
8回	* 総括 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間120分)
3回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの講義内容を振り返りよく理解しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	<p>社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、同僚に助けを求めることや必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。</p> <p>そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。</p> <p>また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)</p>
達成目標	<p>自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。</p> <p>ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。</p> <p>自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。</p>
キーワード	経済、通貨、民族紛争、宗教
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

関連科目	特になし
教科書	必要に応じ、指示する。
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	
注意・備考	「社会と人間A」を受講していることが望ましい。受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	身近な物理学 (FB241060)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8回	これまでのまとめと最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.63~68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.69~70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.71~77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.78~83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.84~88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。(標準学習時間60分)
6回	1~5回までの復習をすること。教科書p.89~92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.93~105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.63~105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	物理学とは、物の理(ことわり)即ち自然現象の原因を実験的・理論的に解明する学問である。この授業では、授業中に行う多くの演示実験の観察を通して、我々の身のまわりで起こる「電磁気」と「光」に関わる自然現象を物理的に説明する能力を身につけることを目的とする。高校での物理公式の知識を必要とせず、できるだけ数式の計算を行わずに、実験の観察と論理的な思考により物理的方法論を修得せしめることに努める。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	<p>演示実験や実験ビデオの観察を通して、身近な自然現象を一般化して物理法則を見出す過程を学ぶ。</p> <p>物理学の諸法則が確立してきた歴史的過程を知ることにより、先人たちの物理的な思考方法を学ぶ。</p> <p>自然現象を簡潔に説明するために、種々の物理量を定義することの必要性とその意味を理解する。</p> <p>身近な物理現象に関する物理パズルの解答・質疑応答を通して、生きた物理学の知識を身につける。</p>

キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、 スネルの法則
成績評価（合格基準60	授業中に行う小テストを50点満点としてその評価点をx点とし、最終評価試験を(100-x) 点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未 満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、学内の丸善(株)教科書販売所で販売する。
参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088- 3 / みすず書房
連絡先	masuo12345nakagawa@gmail.com
注意・備考	高校における物理学の知識の有無は問いませんが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通 して物理学を学びますので、必ず毎回出席してノートに記録してください。物理学は特に論理的思 考を重視する学問ですから、試験においても自筆ノートは持ち込み可とします。以下の学科は、 本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場 合は受講を制限する可能性がある：基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知 能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学学科。「物理学基 礎論 ・ 」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 ・ 」の履修生および 履修予定学生は「身近な物理学 ・ 」の履修を避けること。 ・ テストについては、次回の講義日に解答・評価などのフィードバックを行う。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む） は禁止する。 ・ 必要に応じて、講義開始時に講義資料等を配布する。
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション応用編B (FB241070)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	テキストと講義の進め方について説明し、プレゼンテーションの応用と実践について概説する。
2回	ディスカッションとディベートについて解説し、グループディスカッションを行う。
3回	クレームの発生と対応について概観し、就職活動のための企業研究について解説する。
4回	企業・職業についてグループワークを行い、プレゼンテーションを準備する。
5回	プレゼンテーション演習を実施し、講評とグループワークを行う。
6回	採用試験の実例について解説する。
7回	グループディスカッションを行ってテーマと方法を決め、プレゼンテーション演習の実施を準備する。最終評価試験について説明する。
8回	ここまでの講義内容をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読み、プレゼンテーションの応用と実践について考えておくこと。復習：プレゼンテーションの応用例をまとめること。(標準学習時間45分)
2回	予習：ディスカッションとディベートについて調べておくこと。復習：グループディスカッションの内容を整理すること。(標準学習時間60分)
3回	予習：クレームの発生について考えておくこと。復習：企業研究についてまとめておくこと。(標準学習時間45分)
4回	予習：興味のある企業・職業について調べてくること。復習：グループワークの内容を整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習：プレゼンテーション演習の準備をすること。復習：講評とグループワークの内容を整理すること。(標準学習時間120分)
6回	予習：履歴書とエントリーシートを理解しておくこと。復習：採用試験のポイントを確認すること。(標準学習時間60分)
7回	予習：プレゼンテーション演習のテーマと方法を考えてくること。復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	予習：プレゼンテーション演習を準備してくること。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	プレゼンテーションの技法と発想を応用して、就職活動や研究発表、社会生活に必要な社会人基礎力を養う。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの応用を理解し、自分たちでテーマを見つけてグループディスカッションやプレゼンテーションを企画運営できる。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学、研究発表、社会人基礎力
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	プレゼンテーション応用編A、プレゼンテーション基礎編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫/「文章スキルとプレゼン力」(緑版)/蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。8.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。9.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。10.本講義ではアクティブラーニングを実施し、グループワーク、グループディスカッションを行う。
試験実施	実施する

科目名	ボランティア論 B (FB24J010)
英文科目名	Introduction to Volunteer B
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 猪口雅彦(いのぐちまさひこ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	<p>【中継】 岡山市のESD(持続可能な開発のための教育)活動について説明する。(予定講師: 岡山市役所市民協働局ESD推進課職員)</p> <p>【教室内】 本授業の進め方について説明する。学生が参画するESD活動の企画案をグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>
2回	<p>【中継】 大学コンソーシアム岡山が行った東日本大震災復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。(1回目, 予定講師: 岡山経済同友会・黒住宗道氏)</p> <p>【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループ内で出し合う。</p> <p>(全教員)</p>
3回	<p>【中継】 大学コンソーシアム岡山が行った東日本大震災復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。(2回目, 予定講師: NPO法人AMDA職員)</p> <p>【教室内】 AMDAの方との質疑応答を行う。感想をレポートにまとめる。AMDAは岡山に本拠地を置く国際人道支援活動(主に保健医療関係)を行っているNPO法人で、東日本大震災復興支援活動も行っている。</p> <p>(全教員)</p>
4回	<p>【中継】 大学コンソーシアム岡山が行った災害復興支援ボランティアに参加した学生が活動内容を報告する。</p> <p>【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>
5回	<p>【中継】 各大学で行われているボランティア・地域貢献活動について学生が発表する。</p> <p>【教室内】 学生でもできるボランティア・地域貢献活動をグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>
6回	<p>【中継】 岡山県下で活躍している様々なソーシャルビジネス事業者(NPO・企業など)について紹介する。また、現代社会におけるソーシャルビジネスの意義と魅力について説明する。(予定講師: ゆうあいセンター職員)</p> <p>【教室内】 今後求められるソーシャルビジネスについてグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>
7回	<p>【中継】 受講学生の一言発表・教員一言まとめを行う。</p> <p>【教室内】 学内の団体が行っているボランティア活動について紹介する。</p> <p>(全教員)</p>
8回	<p>【中継】 なし</p> <p>【教室内】 本学での学生生活を向上させるための方策についてグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。これまでの授業内容を振り返る。</p> <p>(全教員)</p>

回数	準備学習
1回	改めてシラバスを読んでこれからの講義内容を把握しておくこと。ESD(持続可能な開発のための教育)について調べておくこと。(標準学習時間120分)
2回	東日本大震災の復興状況について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	AMDAについて、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間30分)

4回	災害復興支援および防災に役立つ企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)
5回	学生でもできるボランティア・地域貢献活動について考えておくこと。(標準学習時間30分)
6回	ソーシャルビジネスについて、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの講義で感じたことをまとめ、一言発表ができるようにしておくこと。(標準学習時間30分)
8回	本学での学生生活を向上させるための方策について考えておくこと。(標準学習時間30分)

講義目的	大学コンソーシアム岡山が行っている子ども・環境・災害復興等に関係した地域貢献ボランティア活動を紹介し、その改善案・新規提案を考える中で、ボランティア活動についての実践的な知識と参加意欲を高めることを目的とする。岡山県内の複数の大学(本学・岡山商科大学・山陽学園大学・中国学園大学)をテレビ会議システムで結び、双方向ライブ型遠隔授業として実施する。講義の内容は、4大学を中心に、大学コンソーシアム岡山が共同で制作する。授業は毎週約50分間の共同制作・同時中継の時間帯(授業内容欄では【中継】と表記)と、その前後で教室内でおこなう大学独自の内容(授業内容欄では【教室内】と表記)の合わせて90分からなる。中継時間帯には大いに他大学の学生と情報交換する。教室内ではグループ討議・発表を含むアクティブラーニングを行い、受講生自身が作り上げていく新しいタイプの講義を目指す。ボランティア論Bでは主に「震災復興支援」を取り上げる。(教養教育センターの単位認定方針Cに強く関与)
達成目標	大学コンソーシアム岡山がおこなっている地域貢献ボランティア活動について、概略を説明できる。受講生どうし(特に専門の大きく異なる他大学の学生)とコミュニケーションができる。地域貢献ボランティア活動に主体的に参画する意欲をもち、その改善案もしくは新規の企画案を考えることができる。
キーワード	大学コンソーシアム岡山 地域貢献活動 ボランティア活動
成績評価(合格基準60)	毎回の授業で作成するレポートの内容(85%)および発表・発言の内容(15%)で評価する。
関連科目	ボランティア論A、ボランティア活動A・B
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一 (A1号館3階319, takahara@ped.ous.ac.jp)
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・内容に継続性があるので、ボランティア論Aとセットで受講することが望ましい。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。受講生自身が講義を作り上げていくという意識で、積極的に講義に参加すること。グループディスカッションを含むので、欠席は極力避けること。欠席する場合は事前に連絡すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・グループディスカッション後の発表で出された意見については、その場で教員がコメントすることによりフィードバックを行う。 ・教室の定員を超える受講希望者がいる場合は抽選で受講生を決める場合があるので、初回の講義には必ず出席すること。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編B (FB24K010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
2回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
3回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
4回	・今まで行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。 ・次回から実施するグループワークのグループ分け。
5回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
6回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
7回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する
8回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮する事(標準学習時間90分)
3回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
4回	質問を考えておく(標準学習時間60分)
5回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	原稿を書き上げておく。

講義目的	自分の考えを人にもわかりやすく文章にまとめるという事は、結構難しい。それを克服させるための講義。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくともマイプロフィールは誰が読んでもわかりやすいと思われるよう書けるようにすることを目的とする。
キーワード	自分だけで納得して文章を書いたらダメ。
成績評価(合格基準60)	発表点60点、文章点40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	特になし
参考書	国語辞書
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	社会と人間B (FB24K020)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	市場恵子* (いちばけいこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【震災と原発】3.11から3年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。
2回	【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。
3回	【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。
4回	【犯罪と更生】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践（治療共同体）を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。
5回	【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。
6回	【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。
7回	【アサーティブ・トレーニング】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習をする。
8回	【ディーセントワーク】（前半45分間講義）人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。
	【期末試験】（後半45分間試験）

回数	準備学習
1回	【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ばく・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。（標準学習時間120分）
2回	【「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、調べておくこと。（標準学習時間120分）
3回	【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。（標準学習時間120分）
4回	【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。（標準学習時間120分）
5回	【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えてくること。（標準学習時間120分）
6回	【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べてくること。（標準学習時間120分）
7回	【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。（標準学習時間120分）
8回	【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。（標準学習時間120分）

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センター 単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。
キーワード	震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革

成績評価（合格基準60	毎回講義後に提出するミニレポート50%、試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7 / 山口のり子 / 梨の木
参考書	坂上香『ライファーズ』（みすず書房）、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』（太郎次郎社エディタス）、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入 女性国際戦犯法廷をめぐる何が起きたか』（世羅書房）、上野千鶴子『おひとりさまの老後』（法研）、上野千鶴子『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、森田汐生『ことばに出そう！自分の気持ち』（すばる舎）、アーサー・ピナード『知らなかった、ぼくらの戦争』（小学館）、阿部彩『子どもの貧困II～解決策を考える』（岩波新書）、吉野源三郎・羽賀翔一『君たちはどう生きるか』（マガジンハウス)
連絡先	PCメール：kei3@po1.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	哲学B (FB24K030)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。
2回	インド哲学 (1) インド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。
3回	インド哲学 (2) インドの「六派哲学」と現代へのその影響を説明する。
4回	中国哲学 (1) 諸子百家の思想を説明する。
5回	中国哲学 (2) 朱子学と陽明学を説明する。
6回	イスラーム哲学 (1) キンディーとファーラービーの哲学を説明する。
7回	イスラーム哲学 (2) イブン・スィナーとガザーリーの哲学を説明する。
8回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、インド、中国、およびイスラーム文化圏の哲学を通して、代表的な東洋哲学をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。各文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。

	過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
成績評価（合格基準60）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） 授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学A、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	経営工学 B (FB24K040)
英文科目名	Industrial Engineering B
担当教員名	西敏明* (にしとしあき*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 電気電子システム学科, 建築学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について説明する。
2回	品質管理について説明する。
3回	品質経営について説明する。
4回	生産性管理と作業管理について説明する。
5回	インダストリアル・エンジニアリング (IE) について説明する。
6回	バリューエンジニアリング (VE) と工学における技術開発について説明する。
7回	設備管理と数理モデルの考え方について説明する。
8回	1-7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	前回の講義の復習と、テキストの多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
2回	前回の講義の復習と、テキストの品質管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回の講義の復習と、テキストの品質マネジメントについて予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
4回	前回の講義の復習と、テキストの生産性管理と作業管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5回	前回の講義の復習と、テキストのインダストリアル・エンジニアリング (IE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	前回の講義の復習と、テキストのバリューエンジニアリング (VE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	前回の講義の復習と、テキストの生産管理について予習すること。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)

8回	予習として、1-7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習して理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化(例として、生産管理)の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 (教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針(ディプロマポリシーに相当)Eに強く関与)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる(C) ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける(E) ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る(E) <p>* ()は教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針(ディプロマポリシーに相当)の対応する項目(教育支援機構 教養教育センターのホームページ参照)</p>
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)で総合的に評価する。 但し、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
関連科目	工学系基礎科目
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよーくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	技術マネジメントB (FB24K050)
英文科目名	Management of Technology B
担当教員名	中村修 (なかむらおさむ)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	製品開発のプロセスについて、戦略的なものづくり、製品開発のカギ、製品の3要素、製品のライフサイクル、先行者利益などについて説明する。(第8章：プロダクツ)
2回	品質管理、TQC、TQM、ISO9000について説明する。、過剰品質が衰退を招いた例として、日本のDRAM産業を取り上げ、適切な品質とはなにか説明する。(第9章：クオリティマネジメント)
3回	企業におけるリスク、それに対するマネージメント、リスクコントロール、リスクマネージメントの責任者について説明する。プロジェクトマネージメント、プロジェクトチームの編成について説明する。(第11章：リスクマネジメント第12章プロジェクトマネージメント)
4回	イノベーションについて3回連続で講義する。その1回目として、バリューネットワークとはなにかについて説明した後でクリステンセン氏の破壊型イノベーションについて説明する。又、破壊型イノベーションがいかに優良企業を失敗に導くかを説明する。最後に山口栄一氏のパラダイム破壊型イノベーションについて説明する。レポート課題を提示する。(プリント配付)
5回	イノベーションについて3回連続で講義する。その2回目として、「パラダイム破壊型イノベーション」の立場から青色発光ダイオードを説明する。日本におけるイノベーションシステムの変遷について説明する。社員の知的創造へのモチベーションと企業価値との相関について説明する。(プリント配付)
6回	イノベーションについて3回連続で講義する。その3回目として、イノベーション政策として、米国SBIR制度を説明する。日本のSBIR制度とその効果について説明する。日本の半導体産業の盛衰の原因を説明する。(プリント配付)
7回	近年、企業の環境問題への取り組みに社会の目が注がれている。ここでは地球温暖化問題、大気汚染問題、土壌汚染問題、水汚染問題を説明する。又、多くの企業が取り組んでいるISO14001について、環境保全にも重きを置いた持続可能な企業の発展の観点から説明する。(第16章：環境マネジメント)
8回	簡単な総括とレポート課題の説明をする。最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的、講義内容、達成目標を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	戦略的なものづくり、製品開発のカギ、製品の3要素、製品のライフサイクル、先行者利益などについて復習すること。(標準学習時間120分)
3回	品質管理、TQC、TQM、ISO9000について復習すること。品質と日本のDRAM産業の衰退について復習すること。(標準学習時間120分)
4回	企業におけるリスクマネージメント、リスクコントロールについて復習すること。プロジェクトマネージメント、プロジェクトチームの編成について復習すること。(標準学習時間120分)
5回	破壊型イノベーションが企業に与える影響や山口栄一氏のパラダイム破壊型イノベーションについて復習すること。(標準学習時間120分)
6回	「パラダイム破壊型イノベーション」の例として青色発光ダイオードの復習をすること。日本におけるイノベーションシステムの変遷について、社員の知的創造へのモチベーションと企業価値との相関について復習すること。(標準学習時間120分)
7回	イノベーション政策として、米国SBIR制度の復習。日本のSBIR制度とその効果について復習すること。(標準学習時間120分)
8回	1～7回までに説明した技術マネジメントAの基礎について復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	企業活動とは、単純に言えば、企業が生産などの活動によって新たに加えられた価値(=付加価値)を生み出す行為(製造業の場合、仕入れた原材料に付加価値を加える行為)のことである。技術マネジメントBでは製品開発、品質管理を取り上げる。その上で、企業が付加価値を永続的に作り出すために、リスク管理や社会的なパラダイムの変化に対応する必要があること、又、各種イノベーションの考え方や環境マネジメントの重要性を理解することを目的とする。
達成目標	・戦略的なものづくり、製品開発のカギである、製品の3要素、製品のライフサイクルや先行者利

	<p>益を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理を理解した上で、過剰品質の問題点を理解する。 ・破壊型イノベーションやパラダイム破壊型イノベーションが社会や企業にもたらす影響を理解する。 ・企業の環境への取り組みを理解する。
キーワード	<p>先行者利益、品質管理、過剰品質、破壊型イノベーション、パラダイム破壊型イノベーション、環境問題</p>
成績評価（合格基準60	<p>毎講義のレポート（10%）、最終評価試験（8回目、出題対象：1回から7回、90%）の総合評価により、60点以上を合格とする。</p>
関連科目	<p>技術マネジメントA</p>
教科書	<p>技術経営論入門（わかりやすいMOTの考え方）／阿部隆夫／森北出版／978-4-627-87121-2</p>
参考書	<p>技術経営入門／藤木健三著／日経BP社／4-8222-4387-7-C2034 イノベーション 破壊と共鳴／山口栄一著／NTT出版／4-7571-2174-1 イノベーション政策の科学／山口栄一著／東京大学出版会／978-4-13-046155-3-C3034</p>
連絡先	<p>メール o-nakamura@pub.ous.ac.jp A1号館1階 研究・社会連携センター オフィスアワー 月4時限 C7号館2F 研究室 オフィスアワー 金4時限</p>
注意・備考	<p>講義資料は必要に応じて講義開始時に配付する場合がある。後日配付にも応じるので、できるだけ早く、申し出ること。 講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。講義中の録音／録画／は事前に相談すること。他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 提出課題（レポート）のフィードバックとして模範解答の説明を8回目の講義で行う。</p>
試験実施	<p>実施する</p>

科目名	科学技術倫理 B (FB24K060)
英文科目名	Science and Engineering Ethics B
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	2 年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	事故責任の法の仕組みについての講義を行う。 [内容] 職務と注意義務、事故責任の法
2 回	法的責任とモラル責任についての講義を行う。 [内容] カネミ油症事件、法とモラルの境界域の責任
3 回	コンプライアンスと規制行政についての講義を行う。 [内容] コンプライアンスとは、規制行政
4 回	説明責任についての講義を行う。 [内容] 説明責任と信頼関係、説明責任が問題となった事案 (原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品)
5 回	内部告発・警笛鳴らしについての講義を行う。 [内容] 内部告発・警笛鳴らしとは、法による救済方法
6 回	環境と技術者についての講義を行う。 [内容] 環境倫理、持続可能性、予防原則、循環型社会
7 回	技術者の財産的権利についての講義を行う。 [内容] 青色発光ダイオード特許裁判、特許等の知的財産権
8 回	これまでの授業の総括と最終試験を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、本講義全般について把握しておくこと。初回授業で講義の進め方や履修上の注意をするので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。教科書の第 8 章を読み、事故責任の法の仕組みの概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	教科書の第 9 章を読み、カネミ油症事件の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	教科書の第10章を読み、コンプライアンスを規制行政との関係で説明できるように予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	教科書の第11章を読み、説明責任が問題となった原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品の事案の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	教科書の第12章を読み、内部告発・警笛鳴らしの概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	教科書の第13章を読み、環境問題の概要とそれに対する技術者の対応について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	教科書の第14章を読み、青色発光ダイオード特許裁判の概要と知的財産権の種類について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第 1 回 ~ 第 7 回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	最終評価試験を行う場合は最終評価試験を行う旨記載してください。

講義目的	科学技術の進歩と産業の発展は私たちの生活をより豊かなものにしてきている。しかしその一方で、企業の不祥事や技術者の不正行為などによって、私たちの生活の安全が脅かされることもしばしば生じている。そのため技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性が以前にも増して求められているのである。この授業では、科学技術の分野で今後の日本の社会を担う技術者や企業に求められる社会的責任、とりわけ法的責任やコンプライアンスについて、過去に起きた事案や実例を素材として一緒に考えてもらうことを目的とする。(理科教育センター単位認定方針のDに最も強く関与する)
達成目標	技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性を認識する。具体的な事案・実例について、問題点を正確に把握し、その解決方法を主体的に探究し、外部に表明できる能力を身につける。上記を通じて、科学技術の分野で今後の社会を担う技術者・企業人としての倫理観・責任感を養う。
キーワード	(技術者) 倫理、社会的責任、法的責任、コンプライアンス、説明責任
成績評価 (合格基準60%)	授業内小テスト・レポート (60%) + 最終評価試験 (40%) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	科学技術倫理 A、法学
教科書	[第5版] 大学講義 技術者の倫理入門/ 杉本泰治・高城重厚/ 丸善出版/ ISBN978-4-621-30016-9

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館（旧24号館）4階研究室
注意・備考	授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 教員が授業で使用したスライドや小テストの解答は後にPDFファイルでポータルサイトにあげておくので、復習に活用すること。 受講生が多い場合には座席指定をする場合がある。 新聞・ニュースなどで実際の社会で起こっている出来事や事件を毎日欠かさずチェックすること。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB24L010)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価(合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB24L020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
2回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
3回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
4回	・今まで行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。 ・次回から実施するグループワークのグループ分け。
5回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
6回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
7回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する
8回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮する事(標準学習時間90分)
3回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
4回	質問を考えておく(標準学習時間60分)
5回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	原稿を書き上げておく。

講義目的	自分の考えを人にもわかりやすく文章にまとめるという事は、結構難しい。それを克服させるための講義。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくともマイプロフィールは誰が読んでもわかりやすいと思われるよう書けるようにすることを目的とする。
キーワード	自分だけで納得して文章を書いてはダメ。
成績評価(合格基準60)	発表点60点、文章点40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	特になし
参考書	国語辞書
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	比較文化論B (FB24L030)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と映画分析の実例を示す。
2回	映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析する。
3回	映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析する。
4回	日本のアニメ映画史を概観する。
5回	日本のアニメ映画史を概観する。
6回	「世界のクロサワ」を検証する。
7回	「世界のクロサワ」を検証する。
8回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講マナーを確認し、映画分析についてまとめること。(標準学習時間45分)
2回	予習：テキストの第14章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
3回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間60分)
4回	予習：テキストの第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた作品を比較すること。(標準学習時間60分)
6回	予習：テキストの第24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間60分)
8回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	岡山を起点として、映画における文化の地域性と表象を提示し、その比較・分析を通じて文化の多様性と相関性を明らかにする。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	映画に表れる地域性とその表象を理解し、文化的多様性と地域の独自性への視点を獲得する。
キーワード	岡山、映画、比較文化論、表象文化論
成績評価(合格基準60)	ミニレポート提出を含む講義への取り組み=40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	比較文化論A、ボランティア論
教科書	世良利和 / 「まあ映画な、岡山じゃ県2」 / 蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 受講者は必ずテキストを購入すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 5. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 9. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	経営工学 B (FB24L040)
英文科目名	Industrial Engineering B
担当教員名	西敏明* (にしとしあき*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について説明する。
2回	品質管理について説明する。
3回	品質経営について説明する。
4回	生産性管理と作業管理について説明する。
5回	インダストリアル・エンジニアリング (IE) について説明する。
6回	バリューエンジニアリング (VE) と工学における技術開発について説明する。
7回	設備管理と数理モデルの考え方について説明する。
8回	1-7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	前回の講義の復習と、テキストの多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
2回	前回の講義の復習と、テキストの品質管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回の講義の復習と、テキストの品質マネジメントについて予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
4回	前回の講義の復習と、テキストの生産性管理と作業管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5回	前回の講義の復習と、テキストのインダストリアル・エンジニアリング (IE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	前回の講義の復習と、テキストのバリューエンジニアリング (VE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	前回の講義の復習と、テキストの生産管理について予習すること。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)

8回	予習として、1-7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習して理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化(例として、生産管理)の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 (教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針(ディプロマポリシーに相当)Eに強く関与)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる(C) 学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける(E) 工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る(E) <p>* ()は教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針(ディプロマポリシーに相当)の対応する項目(教育支援機構 教養教育センターのホームページ参照)</p>
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)で総合的に評価する。 但し、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
関連科目	工学系基礎科目
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよーくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> 講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB24M010)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
3回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
4回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
5回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
6回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
7回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
8回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。(教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する)
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の間を関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価(合格基準60)	ミニレポート提出を含む講義への取り組み=40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B
教科書	世良利和 / 「企業と人間」 / 蜻文庫(2018年9月刊行予定)
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5. 70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	法学B (FB24M020)
英文科目名	Law B
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	司法制度についての概説の講義を行う。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
2回	裁判官という法律家についての講義を行う。 [内容] 司法権の独立と裁判官の市民的自由
3回	検察官という法律家についての講義を行う。 [内容] 検察官の職務内容、検察審査会、検察の不祥事とその防止策
4回	弁護士という法律家についての講義を行う。 [内容] 弁護士の使命、弁護士偏在の問題、法テラス、当番弁護士制度
5回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策
6回	国民の司法参加についての講義を行う。 [内容] 諸外国の国民の司法参加 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点
7回	民事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
8回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
1回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。インターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	第1回の授業で説明した裁判所の種類と三審制度について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	第2回の授業で扱った裁判官の市民的自由の問題について、なぜその問題が重要なのか、またどのようにあるべきなのかについて自身の考えをまとめておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	第3回の授業で扱った検察官の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、検察審査会の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	第4回の授業で扱った弁護士の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、法テラスや当番弁護士制度の内容や重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業内容の刑事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと (特に有罪・無罪の判定について)。最高裁判所のHP等で裁判員制度の紹介をしている箇所を見つけて、おおよその内容を調べておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第6回の授業で説明した諸外国の国民の司法参加と日本の裁判員制度の異同について正確に理解し、整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第7回授業内容の民事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと (特に和解について)。また、刑事裁判との異同についてきちんと整理しておくこと。第1回～第7回授業内容について復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事案や裁判例を交えて分かりやすく解説し、また法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
------	--

達成目標	司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得すること。六法を使って必要な条文が検索できるようになること。司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できるようになること。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度
成績評価（合格基準60）	授業内小テスト・レポート（計2回、各20%）+最終評価試験（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	法学A、日本国憲法
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表）/ 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B 3号館（旧24号館）4階研究室
注意・備考	<p>指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。</p> <p>授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。</p> <p>テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。</p> <p>小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。</p> <p>新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。</p>
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FB24M030)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法の説明をする。 * 「世界経済」「民族と宗教」に関する自己知識のレベルを把握し、予習/復習計画の立案を行う。
2回	* 世界経済の全体像を概説する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
3回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的を説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
4回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
5回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を学ぶ。
6回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
7回	* 「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
8回	* 総括 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間120分)
3回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの講義内容を振り返りよく理解しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	<p>社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、同僚に助けを求めることや必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。</p> <p>そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。</p> <p>また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)</p>
達成目標	<p>自分の考えや意見を短い時間で正確にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。</p> <p>自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。</p>
キーワード	経済、通貨、民族紛争、宗教
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

関連科目	特になし
教科書	必要に応じ、指示する。
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	
注意・備考	「社会と人間A」を受講していることが望ましい。受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	マスメディア論 B (FB24M040)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	マスメディア論Aの試験解答と結果を解説する。「広告」2016年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。
2回	「インターネット」インターネットの歴史、外観、現状を学習する。
3回	「インターネット」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。
4回	「ソーシャルメディア」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。
5回	「ソーシャルメディア」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。
6回	「音楽」日本の音楽の変遷、CD市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。
7回	「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。
8回	1~7回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
成績評価(合格基準60)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
教科書	適宜、資料などを配布する。
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター 岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp

注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	身近な化学 (FB24M050)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	森義裕* (もりよしひろ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質の状態は何によって決まるか、説明する。
2回	身近な気体と溶液のおもしろい性質について説明する。
3回	化学反応によって新たな物質が生まれることを説明する。
4回	身の回りの酸と塩基について説明する。
5回	酸化と還元のおもしろさについて説明する。
6回	物質が光を吸収したり放出したりする原理を説明する。
7回	化学者は物質をどうやってつくるのか、説明する。
8回	1回～7回までの総括を説明する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	物質の状態は何によって決まるのかについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身近な現象から気体と溶液の性質を学ぶ」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
2回	身近な現象から学ぶ気体と溶液の性質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「化学反応によって新たな物質が生まれる」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
3回	化学反応によって新たな物質が生まれることについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「身の回りの酸と塩基を考える」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
4回	身の回りの酸と塩基について復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「酸化と還元のおもしろさ」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
5回	酸化と還元のおもしろさについて復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「光は物質をどう変えるか」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
6回	光は物質をどう変えるかについて復習を行うこと。第7回目授業までに身近な物質はどのように作られているのか、調べておくこと(標準学習時間90分)
7回	身近な物質はどのように作られているのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと(標準学習時間120分)
8回	ここまで授業内容についての復習を行うこと(標準学習時間120分)

講義目的	身近な物質で、焦げる物質と焦げない物質がある。水に浮く物質と沈む物質がある。温めて融けやすい物質と融けにくい物質がある。水に溶ける物質と溶けない物質がある。物質は他の物質と反応して別の物質になる。物質を構成する原子・分子はイオンになる。物質を特徴づける性質を知り、化学反応を学び、原子・分子・イオンが動いて変化する様子を想像・実感できるようにする。熱、光、電気などが関わる化学の世界を理解できるようにする。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	(1)物質の三態(気体・液体・固体)について説明できる (2)化学反応について説明できる (3)酸と塩基、酸化と還元について説明できる (4)物質と電磁波の関係について説明できる
キーワード	気体、液体、固体、エネルギー、溶液、化学反応、酸、塩基、酸化、還元、電池、電気分解、電磁波
成績評価(合格基準60)	小テストの結果40%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	「身近な化学I」を受講していることが望ましい。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のおもしろさ/日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編/化学同人/978-4759810912
参考書	指定しない
連絡先	e-mail: ymori.ous@gmail.com
注意・備考	・講義中の録音/録画は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影(静止画)は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。 ・講義の最後に、適時小テストを行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストについては、翌講義時に解答と解説をし、フィードバックを行う。 ・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な化学 Ⅰ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学B(実験で理解する原子論の世界)(FB24M060)
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 森田明義*(もりたあきよし*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス, ものとその重さ: 授業の進め方について説明したあと、質量保存の法則やその適応範囲について、実験を交えて解説する。 (全教員)
2回	三態変化(1): 固体を熱したときの变化について、身近な固体の加熱実験を交えて解説する。 (全教員)
3回	三態変化(2): 気体・液体・固体の様々な状態変化について、加圧したり加熱したりする実験を交えて解説する。 (全教員)
4回	三態変化(3): 気象と三態変化の関係を、実験を交えて解説する。 (全教員)
5回	温度と分子運動(1): 熱と分子運動の関係について、実験を交えて解説する。 (全教員)
6回	温度と分子運動(2): 水の蒸発と温度変化の関係について、分子運動の観点から実験を交えて解説する。 (全教員)
7回	温度と分子運動(3): 水以外の液体の蒸発と温度変化の関係や、水蒸気が液体にもどるときの温度変化と分子運動の関係を、実験を交えて解説する。 (全教員)
8回	本講義のまとめを行う。最終評価試験を実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回配布された資料を読んで、質量保存の法則について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回配布された資料を読んで、固体を熱したときの变化について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回配布された資料を読んで、気体・液体・固体の状態変化について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回配布された資料を読んで、気象と三態変化の関係について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回配布された資料を読んで、熱と分子運動の関係について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回配布された資料を読んで、水の蒸発と温度変化の関係について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回までに配布された資料を読んで、この授業全体の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	「物質はすべて原子・分子からできている」という原子論の考え方や、「あらゆる物質には重さ(質量)があり、それは保存される」という質量保存の法則は、近代科学の最も基礎的な概念でありながら、実感を伴って理解されていないことも多い。こうした基礎的な概念を予測 討論 実験による検証というパターンの学生参加型の授業(仮説実験授業)により、しっかり身に付けさせる。
------	--

	科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質不滅の原理を、原子・分子のイメージで理解し、定性的な問題に答えることができる。 2. 物質の三態変化を、原子・分子の集合状態の違いとして理解し、定性的な問題に答えることができる。 3. ものの温度と、原子・分子の状態を関係づけて理解することができる。 4. 様々な現象が、原子論の考え方や物質不滅の原理を使うと理解できることが多いことを実感する。 5. 科学における予想・討論・実験の楽しさと重要性を理解する。
キーワード	原子・分子，固体，液体，気体
成績評価（合格基準60）	毎回の授業の最後に提出してもらおうレポート（授業中の発言も評価に加味，65%）および最終評価試験の結果（35%）により評価する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門，科学ボランティア実践指導，科学ボランティア活動
教科書	なし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし。
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[at]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ D2号館3階理科実験室（収容定員50名）を使用して実験・観察を行う。 ・ 本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講である。「現代人の科学」との合計の受講希望者が収容定員の50名を超える場合はガイダンス参加者から受講生を選抜することができるので、必ずガイダンスに出席すること。その際、「現代人の科学」の受講生を優先する。その次に、内容が専門と異なる学科の学生の受講を優先する。 ・ この講義では実験結果についての予想を聞き、その予想の理由を討論するという形でアクティブラーニングを行う。 ・ 講義資料は講義中に配布する。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・ 毎回の授業の最後に提出してもらおうレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教 B (FB24M070)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。
2回	古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。
3回	古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。
4回	日本の伝統的倫理を説明する。
5回	現代の倫理 (1) 死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。
6回	現代の倫理 (2) 自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。
7回	現代の倫理 (3) 脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。
8回	前半: 最終評価試験 後半: 試験の解答と解説

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、日本人の考え方にも大きな影響を与えた、古代インド、中国宗教の倫理を中心に、主として東洋の倫理思想を学ぶ。そのうえで、現代の私たちに直接かかわりのあるいくつかの問題について、倫理的な視点から多角的に考察できるようになることが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。

	各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 哲学者・宗教家の倫理に関する思考を追体験し、日常生活に役立てることができる。
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学
成績評価（合格基準60	成績評価と基準は明確に記入。出席回数は点数化しない。「レポートと試験により評価する」、「授業態度により評価する」、「平常点により評価する」といったあいまいな表現は不可。例）提出課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	倫理と宗教A、哲学
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB24M080)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫/「文章スキルとプレゼン力」(緑版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10. 本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB24N010)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価(合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24N020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2回	経験や知識の文章化に取り組む。
3回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5回	対立する意見を使って文章を構成する。
6回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法基礎編A、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著/「新・文章表現法 基礎編」(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時のみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	マスメディア論 B (FB24N030)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	マスメディア論 A の最終試験について解説し、今後の講義内容について概略を説明する。
2回	インターネットの歴史と特性について説明する。
3回	出版メディアの歴史と特性について説明する。
4回	広告の歴史と特性について説明する。
5回	メディアの効果研究について説明する。
6回	活字メディアと映像メディアの特性について説明する。
7回	メディアリテラシーの意義と役割について説明する。
8回	ここまでの講義内容について振り返り、最終的な評価をするための試験を実施する。

回数	準備学習
1回	マスメディア論 A の最終試験の解説を踏まえ、今後の講義内容について予習する。(標準学習時間 180分)
2回	インターネットの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 120分)
3回	出版メディアの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 120分)
4回	広告の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 120分)
5回	メディアの効果研究について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 120分)
6回	活字メディアと映像メディアの特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 120分)
7回	メディアリテラシーの意義と役割について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 120分)
8回	ここまでの講義内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	生活に欠かせないメディアの存在。そのメディアの特性を知り、社会のあり方や情報の活用方法について学ぶことで、社会人としての資質を養う。(教養教育センター単位認定の方針 C にもっとも強く関与。)
達成目標	様々な情報の中からどう取舍選択するか、メディアに対するリテラシー能力を高め、社会人としての判断力を身につける。
キーワード	メディアリテラシー、ネット社会
成績評価(合格基準)	60 最終評価試験を実施し、配点は 100 点満点とする。
関連科目	情報メディア、ジャーナリズム論、コミュニケーション、
教科書	なし
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版:たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまプリマー新書
連絡先	A 1 号館 6 F 八木研究室 086-256-9758
注意・備考	受講者数が 100 名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	身近な化学 (FB24N040)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	山崎重雄* (やまざきしげお*), 金谷輝人* (かなだにてると*), 大谷槻男* (おおたにつきお*), 平岡裕 (ひらおかゆたか), 丸山系美 (まるやまいとみ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	アルカロイドを利用した薬剤に関する英文を読み、その効用や副作用について学ぶ。 (丸山 系美)
2回	錆び(さび)とは何か? 錆びはどのようにしてできるか等について、身近な例を挙げ説明する。 (金谷 輝人*)
3回	金属材料, セラミックス材料, 高分子材料の物理的, 化学的性質の違いを結合様式, 構成原子・分子, 様々な欠陥・不純物などの観点から説明する。 (平岡 裕)
4回	物質の相変化・変態, 熱の伝導・移動, 他のエネルギーへの熱の変換などを原子・分子の観点から説明する。 (平岡 裕)
5回	エネルギーなしで永久に動き続ける永久機関は存在しない。その理由を解説する。 (大谷 槻男*)
6回	植物の光合成により空気中の二酸化炭素が減り、酸素が増えた。それにより生命がいかに守られてきたかを説明する。 (大谷 槻男*)
7回	実験室内での化学合成と比べて化学工場での合成では、しばしば4桁以上大きいこともある。このとき派生してくる問題点について考察する。 (山崎 重雄*)
8回	最近、注目される研究や実用化された高分子について、その背景や問題点を含めて説明する。 (山崎 重雄*)

回数	準備学習
1回	アルカロイドについて、ネットなどで事前に情報を得ておくこと。(標準学習時間50分)
2回	さびができる物質、場所をできるだけ多くノートに書いて持ってくること。(標準学習時間50分)
3回	金属材料, セラミックス材料, 高分子材料の特徴, 用途について調べておくこと。(標準学習時間50分)
4回	相変化・変態, 熱伝導・移動, エネルギー変換などの言葉について調べておくこと。(標準学習時間50分)
5回	エネルギーとは何かを予習しておくこと。(標準学習時間50分)
6回	光合成について予習しておくこと。(標準学習時間50分)
7回	2乗3乗則について調べてくること。また球の体積と表面積の公式を確認して来ること。(標準学習時間50分)
8回	生分解性高分子や徐放性薬剤などの機能性高分子について調べてくること。(標準学習時間50分)

講義目的	化学合成技術と分析技術の進歩により、21世紀は新しい物質の創生と発見で物質にあふれている。そして今現在も新しい物質がどんどん誕生している。地球上ですべての物質を把握している人は存在しない。それにもかかわらず、物質の理解がないと犯罪者になるかもしれないのだ。今日、物質を理解することは、地球を守ることであり、また家族も自分も守ることに繋がるのだ。この
------	--

	講義は、身近な化学1に続いて、英文学、機械工学、物理、化学を専門にする5名の教員がそれぞれの立場で物質化学を説明し、安心安全に物質社会を生きて行くための物質の理解力を身につけるようにする。
達成目標	現在、地球上で、人類に大きな影響（良い影響、悪い影響の両方）を与える物質を5種類書き、その影響について説明することができる。
キーワード	
成績評価（合格基準60	講義の段落ごとにレポートまたは小テストを行い、その評価の平均点が60点以上を合格とし単位を与える。
関連科目	身近な化学
教科書	教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配布する。
参考書	
連絡先	山崎重雄 E-mail :ugg89415@nifty.com
注意・備考	・ 第一回の講義には、英語の辞書を持参すること。・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科・「化学基礎論」と一部の内容が重複する可能性があるため、これらの科目の履修生および履修予定者はこの科目の履修を避けること。・ 課題のフィードバックは提出日の翌週に行う。・ 講義中の録音／録画／撮影の許可は各講義の担当教員に願い出ること。・ 講義資料の配布は講義ごとに必要に応じて行う。
試験実施	実施しない

科目名	身近な生物学 (FB24N050)
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	森本政秀* (もりもとせいしゅう*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生物と環境はどのように作用しているか、解説する。
2回	生物の個体群はどのように変化するのか、解説する。
3回	生態系の中での物質循環、エネルギーの流れについて解説する。
4回	環境問題について解説する。
5回	動物の行動について解説する。
6回	生物はどのように誕生し、進化したかについて解説する。
7回	生物の進化のしくみ、証拠について解説する。
8回	生き物を系統よっての分類について解説する。

回数	準備学習
1回	生物と環境について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
2回	生物の個体群について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
3回	物質の循環について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
4回	環境について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
5回	動物の行動について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
6回	生物の進化について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
7回	生物の進化のしくみについて予習を行うこと。(標準学習時間90分)
8回	生き物の分類について予習を行うこと。(標準学習時間90分)

講義目的	生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解する。 (理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができる。
キーワード	生態系
成績評価(合格基準)	60 毎回の提出課題50%、毎回行う小テストの結果50%を評価し、総計で60%以上を合格とする。最終評価試験は行わない。
関連科目	「身近な生物学」
教科書	やさしい基礎生物学 第2版/南雲保/羊土社
参考書	特に指定しない
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。基礎理学科,生物化学科,臨床生命科学科,動物学科,バイオ・応用化学科,生命医療工学科,生物地球学科 「生物学基礎論」の一部の内容が重複する可能性があるため、「生物学基礎論」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学」の履修を避けること。 講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り、プロジェクターに映し出される画像・小テストの内容のみ許可をする。 提出した課題は、添削をして次回の講義時に返却し、前回の復習として小テストの解説をすることでフィードバックを行う。 「身近な生物学」と「身近な生物学」はある程度の順序性があるので、連続受講を推奨する。
試験実施	実施しない

科目名	科学技術と人間 B (FB24N060)
英文科目名	Science-Technology and Human Beings B
担当教員名	中村修 (なかむらおさむ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現在の白色LEDについて簡単に説明する。青色LED、白色LEDに使用されているGaN系の実用化以前、LEDの材料として有望だと考えられており、単結晶まで量産化したZeSeの開発について説明する。バックライトとして白色LEDがメインになって以降、使用されなくなった冷陰極管について説明する。
2回	一家に一台のプリンターを当たり前にしたインクジェットプリンターの原理と発展について説明する。
3回	現在の日本のエネルギー動向を説明する。その解決策としての再生エネルギーについて、種類と意義、課題について説明した後で、太陽光発電に焦点を当て説明する。レポート課題を提示する。
4回	水素エネルギーの日本における社会的意義、現状と展望について説明する。その後、水素エネルギー技術(製造・貯蔵・輸送・利用)について説明する。現在の日本のエネルギー問題の解決策としての水素社会を説明する。
5回	燃料電池の原理と種類について説明する。住宅用と車用の燃料電池について説明する。エレクトロニクス分野での実用化について問題点を説明し、何故、この分野の開発が停滞しているのかについて説明する。
6回	水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性の説明をする。これらを通じて燃料電池=水素社会が実現するための条件について説明する。
7回	再生エネルギーと水素エネルギーについて、これまでの講義で取り上げなかったトピックス的な話題を取り上げ説明する。
8回	これまでの講義を振り返り総括する。レポート課題の説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習として、蛍光灯が白色に光る原理を調べる。又、熱陰極管、冷陰極管について、それぞれどこに使われているか調べる。(標準学習 60分)
2回	ZeSeの開発について復習すること。バックライトとしての冷陰極管について復習をすること。予習として、水の沸騰現象について調べる。(標準学習 120分)
3回	インクジェットプリンターの原理と発展について復習すること。予習として、科学的なエネルギーの定義やエネルギー保存則を調べる。新聞等で使用される"エネルギー"という言葉の使われ方を調べる。(標準学習 120分)
4回	再生エネルギーについて、種類と意義、課題について復習すること。太陽光発電の問題を復習すること。予習として水素の燃焼エネルギーについて調べる。水素貯蔵合金とはなにか調べる。(標準学習 120分)
5回	水素エネルギーの日本における社会的意義、水素エネルギー技術(製造・貯蔵・輸送・利用)について復習すること。予習として水の電気分解について、調べる。(標準学習 120分)
6回	燃料電池の原理と種類について復習すること。住宅用と車用の燃料電池について、エレクトロニクス分野での実用化の問題点を復習すること。予習として水素の危険性、特に、爆発限界濃度について調べる。(標準学習 120分)
7回	水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性について復習すること。予習として再生エネルギー、水素エネルギーに関する最近の話題を調べる。(標準学習 120分)
8回	第1回から7回目までの講義の復習をすること。(標準学習 180分)

講義目的	一般的には、科学技術の進歩が社会に変化をもたらすと考えがちであり、且つ、事実でもあるが、一方では、科学技術の進歩はその社会背景に依存することが多いことも事実である。本講義では、近年、急速に忘れ去られつつある技術として、冷陰極管を取り上げ、生活に大きな影響を与えた技術としてインクジェットプリンターを取り上げる。又、社会的な受容性や今後の社会構造の変化が求められる技術として、再生エネルギーや水素エネルギー技術を取り上げる。特定の例を知ることによって、科学技術と人間社会の関わりについて知ることを目的とする。(全学のディプロマポリシーのうち、Bに最も強く関与する。)
達成目標	本講義で取り上げたテーマについて、新聞やニュースでの話題を取り上げ、批判や説明ができるよ

	うになる。
キーワード	冷陰極管、インクジェットプリンター、再生エネルギー、太陽電池、水素社会、燃料電池
成績評価（合格基準60	レポート10%、最終評価試験90%により成績を評価し、総計が60%以上を合格とする。
関連科目	科学技術と人間A（本講義とある程度の順序性がありますので、AとBの連続受講を推奨します。）
教科書	教科書は使用しない。適宜、講義資料（プリント）を配付
参考書	再生エネルギー技術白書 / NEDO編 / 森北出版 / 978-4-627-62502-0C305 3:水素エネルギー白書 / 日刊工業新聞社 / 978-4-526-07356-4C3050 その他の参考書については講義で適宜説明する。
連絡先	メール o-nakamura@office.ous.ac.jp A1号館1階 研究・社会連携センター オフィスアワー 月2時限 C7号館2F 研究室 オフィスアワー 金4時限
注意・備考	講義資料は必要に応じて講義開始時に配付する。後日配付にも応じるので、できるだけ、早く、申し出ること。講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。講義中の録音 / 録画 / は事前に相談すること。他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 講義中に課した提出課題（レポート）のフィードバックとして模範解答の説明を8回目の講義で行う。 本講義の内容は、文献や本等で調査したものだけではなく、私が、体験したもの、側で見ていたものも含まれる。できるだけ、生々しい話もしたいと思う。
試験実施	実施する

科目名	論理学 B (FB24N070)
英文科目名	Logic B
担当教員名	中島聰 (なかしまさとし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	西洋の近現代の論理学について概説する。 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。
2回	帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴を説明する。
3回	命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成の手順を説明する。
4回	命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法を三つ説明する。
5回	命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)を説明する。
6回	述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を説明する。
7回	述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)を説明する。
8回	帰納論理学・命題論理学・述語論理学の基礎的な事項についての学習内容を復習する。 また最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)。
2回	教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	ここまでの授業内容について復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	西洋の近現代の代表的な三つの論理学を取り扱い、各論理学の核心的な事項を学習する。論理学は「人の正しい思考の規則・法則を明らかにする」基本的・形式的な学問である。主に各々の論理学の推論の技法を、事例をもとに習得するとともに、言語の記号処理の手法を学習する。これは、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力の向上にもつなげる。このように論理学Bは論理的推論の技法の学習と社会的場面での応用・展開を目的とする。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する)
達成目標	各論理学の基礎的な事項について正確な理解ができる。 さまざまな推論の問題演習を通して、その技法を習得することができる。 言語の記号処理と真偽の判定ができる。 社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開できる。
キーワード	論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理 論理式の真偽計算 述語と量化
成績評価(合格基準60)	最終評価試験により成績を評価する。 最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	「論理学A」を受講しているが望ましい。

教科書	論理学研究 / 中島 聡 / ふくろう出版 / 978-4-861865466
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照してください。
連絡先	
注意・備考	論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB24N080)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫/「文章スキルとプレゼン力」(緑版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	経済学 B (FB24N090)
英文科目名	Economics B
担当教員名	野村證券* (のむらしょうけん*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部(16~),工学部(16~),総合情報学部(16~),生物地球学部(16~),経営学部(16~)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	証券投資のリスク・リターン
2回	ポートフォリオ・マネジメント
3回	外国為替相場とその変動要因について
4回	債券市場の役割と投資の考え方
5回	株式市場の役割と投資の考え方
6回	投資信託の役割とその仕組み
7回	ライフプランニングとNISA
8回	まとめ・最終評価試験

回数	準備学習
1回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持つこと(標準学習時間90分)
2回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持つこと(標準学習時間90分)
3回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持つこと(標準学習時間90分)
4回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持つこと(標準学習時間90分)
5回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持つこと(標準学習時間90分)
6回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持つこと(標準学習時間90分)
7回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持つこと(標準学習時間90分)
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと(標準学習時間90分)

講義目的	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法など実務の観点から解説します。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)
達成目標	経済において証券市場が果たす役割はきわめて大きいものであるが、その実態はどのようなものかを現場の鋭い実務感覚をベースに分かりやすく解説していきたい。証券市場と証券投資の現実を知ることが、将来の資産運用に役立つ知識を得るだけではなく、生きた経済を肌で感じる機会に出会うことでもある。多くの意欲的な学生諸君が受講して、自らの学問的感覚を磨いてくれることを期待している。
キーワード	金融、企業、経営
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)。得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	適宜、資料をコピーして配布
参考書	「証券投資の基礎」野村証券投資情報部 編/丸善株式会社
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の方による講義のため、講義計画は変更になる場合がある。 ・企業の方による講義のため、講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合、事前相談すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。特別な事情がない限り、後日の配布は応じない。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学D(人工知能への道と社会への影響)(FB240020)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	大西 荘一* (おおにし そういち*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	第1次から第4次の産業革命について、それぞれのその原因となった科学技術と社会への影響について概説する。(資料を配布する)
2回	コンピュータの主要な理論の歴史と提唱者について、及び知能について解説する。
3回	ノイマン型コンピュータの原理とICTの進化のポイント及び人工知能の歴史を解説する。
4回	コンピュータ技術の確立とハードウェアの技術革命及び人工知能用コンピュータについて解説する。
5回	日本における電卓開発の背景とその熾烈な開発競争が生み出した偉大な技術が社会に及ぼした影響について解説する。 ソフトウェア発展の歴史の概説とソフトウェア危機の原因と対策、及び教育界への影響について解説する。
6回	インターネット及び人工知能(AI)とIoTが社会に及ぼす影響について解説する。
7回	前半： インターネットの通信技術の概説をする。 後半： 個人あるいはグループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。
8回	前半：個人あるいはグループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。 後半：最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回配布した資料を学習しておくこと。及び、その内容に関連したことをインターネットで検索し学習しておくこと。教科書1-1項(全14ページ)を学習しておくこと。(標準学習時間180分)
3回	配布資料の「進化のポイント」の項、及び教科書2-1-2項(全8ページ)を学習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	配布資料の該当する項を学習しておくこと。(標準学習時間70分)
5回	配布資料の「電卓戦争」及び「ソフトウェア危機」の項を学習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	配布資料及び教科書の2-2項を学習しておくこと。(標準学習時間70分)
7回	パワーポイントでプレゼン資料を作成しておくこと。(標準学習時間240分)
8回	最終試験にそなえ復習をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	煩雑な計算から解放されるために人類が歩んだ道を振り返って、現代のコンピュータの偉大さと人工知能が社会に与えた影響を理解する。 コンピュータ及び人工知能に関連する技術が発展する過程を知ることによって、情報関連技術の方向性を知る。 過去を見つめることによって、新たな情報関連技術を創造するための資料とする。 (理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	現在のコンピュータ及び人工知能が歩んできた道を理解する。それと共に、既に学んだ現在使われている情報関連技術を再確認すること。 また、過去に開発された技術について、歴史的な位置づけをして、それぞれの技術の社会への影響を評価できるようになること。コンピュータ及び人工知能の歴史の中で興味のあることについて、友達あるいは知り合いに説明ができるようになること。
キーワード	計算機械、コンピュータ、マイクロプロセッサ、パソコン、ソフトウェア、インターネット、電卓、人工知能(AI)、IoT
成績評価(合格基準60)	小レポート(20%)、プレゼンテーション(10%)、最終評価試験(70%)で評価し、

	総計で60%以上を合格とする。
関連科目	高等学校情報科のコンピュータの歴史に関連した個所である。
教科書	人工知能の基本 / 東中竜一郎 / 翔泳社 / ISBN978-4-7981-5153-3
参考書	講義スライドを資料として配付する。 実物でたどるコンピュータの歴史 / 竹内伸 / 東京図書 / ISBN978-4-487-80692-8 コンピュータ200年史 / 山本菊男訳 / 海文堂 / ISBN4303714305-9784303714307 日本のコンピュータ史 / 情報処理学会歴史特別委員会 / オーム社 / コンピュータの時代を開いた天才たち / デニス・シャシャ, キャシー・ラゼール(鈴木良尚訳) / 日経BP社 / ノイマンとコンピュータの起源 / William Aspray 著 杉山 滋郎, 吉田 晴代 共訳 / 産業図書 /
連絡先	mascot_oni@yahoo.co.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ PowerPointでプレゼンスライドを作成してもらうので、PowerPointが利用できることが望ましい。 ・ 学生が調査内容を発表するので、発表を1回の授業で終わらせるために、50名以上の場合は受講制限する可能性がある。 ・ 情報科学科の学生は、内容が学科必修科目と重複するので、受講を許可しない。 ・ 講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・ 課題については、パワーポイントでプレゼンスライドを作成し、指定された講義日にプレゼンテーションを行い、質疑応答でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB24P010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
2回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
3回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
4回	・今まで行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。 ・次回から実施するグループワークのグループ分け。
5回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
6回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
7回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する
8回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮する事(標準学習時間90分)
3回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
4回	質問を考えておく(標準学習時間60分)
5回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	原稿を書き上げておく。

講義目的	自分の考えを人にもわかりやすく文章にまとめるという事は、結構難しい。それを克服させるための講義。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくともマイプロフィールは誰が読んでもわかりやすいと思われるよう書けるようにすることを目的とする。
キーワード	自分だけで納得して文章を書いてはダメ。
成績評価(合格基準60)	発表点60点、文章点40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	特になし
参考書	国語辞書
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	福祉環境論 B (FB24P020)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	本講義のガイダンス (福祉の目的、意義、講義概要) をする。 心と身体、DMD症について説明する。
2回	心と身体、DMD症について説明する。
3回	「身体障がい者補助犬法」と生きがい感の創造について説明する (DVD等)。
4回	「障がい者スポーツ」について説明する (DVD等)。
5回	福祉機器、車いすの疑似体験を行う。
6回	高齢者の心と身体の特徴について説明する。人間のライフサイクルについても説明する。
7回	自己実現、至高経験、創造的人間について説明する。
8回	これまでのまとめと最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。DMD症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2回	DMD児の心の課題について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
3回	「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	「身体障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	大学内の施設のチェックポイントの確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
6回	人間のライフサイクルについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	人間のライフサイクルについて復習をすること。マスローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
8回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間尊重の視点に立ち、障がい者や高齢者の幸福追求の権利 (自己実現) や生きがい感獲得の方策について考察するとともに、一人ひとりの人間の幸福追求について新たに見つめ直す。「人生の一回性」の認識を深め、生と死について考察し自己存在感の認識実現につなげる。(教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	障がい者や高齢者の課題について、それらは限定された特別なものではなく、社会全体や一人ひとりの人間の共通課題として捉え、説明できること。DMD症児について説明できること。(C) 福祉機器やユニバーサルデザインについて理解を深め、説明できること。(D) 世界人権宣言、障がい者の権利宣言、幸福追求の権利等について説明できること。(C) 現代社会の福祉環境の課題について要約できること。(D)
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、
成績評価 (合格基準60)	課題提出 2回 (30%)、最終評価試験 (70%)
関連科目	健康の科学。生涯スポーツ (ヨット) およびスポーツとフィールド科学 (ヨット) では、障がいのある学生も受講できるようにユニバーサルデザインのヨットを使っています。
教科書	講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。
参考書	適宜紹介する
連絡先	B 3号館 3階 西村 (次) 研究室
注意・備考	受講者の積極性を期待しています。知識だけでなく実際に見て、触れて、考えましょう。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・提出課題については、講義中にフィードバックを行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に相談すること。 ・本講義は、アクティブラーニングを行うので、受講者が多数の場合は受講者制限を行う場合がある。
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB24Q010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学プロジェクトコース,生命医療工学科,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5回	* ケーススタディ 取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8回	総括

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。(教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する)
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	
注意・備考	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

試験実施	実施しない
------	-------

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24Q020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2回	経験や知識の文章化に取り組む。
3回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5回	対立する意見を使って文章を構成する。
6回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編 A・B、文章表現法応用編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編(群青色版) / 蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時のみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24Q030)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	佐藤美穂* (さとうみほ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	段落 段落の中心文と支持文が何か学び、段落内の構造について学習する。
2回	段落 段落の中心文と支持文、段落のつながりを学習する。複数の段落のある文章を書く。
3回	要約文 要約の仕方を学習する。1つの文章をグループで分担して要約する。
4回	要約文 グループ内で要約文を持ち寄り、各要約から文章の最終を予測する。
5回	意見文を書く 意見文の表現と書き方を学習しアウトラインを作成する。
6回	意見文を書く 作成した意見文のアウトラインを基に意見文を作成する。
7回	自分をアピールする文を書く 必要な表現を学習し、自分について整理するための表を作成する。
8回	自分をアピールする文を書く 自分をアピールする文を作成する。
	最終評価試験

回数	準備学習
1回	段落内の構造について復習すること。(標準学習時間60分)
2回	復習により一貫性のある文章を書くためには段落のつながりを考える必要性があることを確認すること。(標準学習時間60分)
3回	1段落の要約の仕方、複数の段落の要約の仕方を復習すること。第4回授業までに要約文を完成させておくこと。(標準学習時間90分)
4回	あるテーマに沿った内容のアウトラインを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	あるテーマに沿った内容のアウトラインを完成させておくこと。(標準学習時間60分)
6回	第5回授業で意見交換した内容を踏まえて書いた文章を推敲すること。第7回授業までに自分のことについて何がアピールできるか考えておくこと。(標準学習時間90分)
7回	自分についての表を完成させておくこと。(標準学習時間60分)
8回	文章を書くルールや読み手に効果的な文章の書き方を復習すること。(標準学習時間90分)

講義目的	日本語の文章の書き方の基本的ルール、文や文章の構造を理解し、読み手を意識したわかりやすい文章表現の方法を身につけることを目的とする。さらに話し合いを通して文章を推敲する力を養うことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	日本語の文章の書き方のルールに従って文章を書くことができる。 論理的な文章を書くことができる。 読み手をに配慮したわかりやすい文章を書くことができる。 自分の考えや自分について文章表現できる。
キーワード	書き方のルール、構造、論理的、読み手、文章表現
成績評価(合格基準60)	最終評価試験 50% 課題提出 50% により評価し、総計で60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は授業開始後20分まで。それ以降の入室は欠席とする。早退は授業終了の20分前以降。それ以前の退出は欠席とする。
関連科目	文章表現法基礎編Aを受講していることが望ましい。 プレゼンテーション ・ 、日本語関連授業
教科書	特定の教科書は指定しない。

参考書	適宜指示する
連絡先	mihosato0919@yahoo.co.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中に配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は、出席者の資料をコピーすること。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け取る。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部、シラバスを変更する場合がある。受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	文学B (FB24Q040)
英文科目名	Literature B
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	『莊子』について説明する
2回	『世説新語』について説明する
3回	『史記』から項羽本紀などについて説明する
4回	六朝志怪小説から「搜神記」について説明する
5回	唐代伝奇小説から「枕中記」「杜子春」について説明する
6回	明代白話小説「三国志演義」「西遊記」「水滸伝」「金瓶梅」を紹介する
7回	清代の小説『紅樓夢』について説明する
8回	授業のまとめを行う。 最終試験を実施する

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分)Aから継続する受講者は、前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。李煜について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。莊子の世界観をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。世説新語に登場した人物のエピソードをどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。項羽の運命をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。搜神記の逸話をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。枕中記、杜子春の逸話の意味なにかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読むこと。(標準学習時間120分)
7回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。(標準学習時間90分)
8回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。紅樓夢の登場人物のうち誰が好きか、なぜそうなのかを考えておくこと。最終試験に向けて準備すること(標準学習時間150分)

講義目的	中国の文学作品の主な作者や作品について知識を持ち、内容を理解して味わうことが出来るようになる。文学が人間にとってどのような意味をもつか、考えることが出来るようになる。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	中国の歴代の散文・小説のうち、自分の好きな作品について基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明し、自分なりの評価をすることが出来る。 中国文学について、おおむねの流れを説明することが出来る。
キーワード	中国文学、散文、小説、
成績評価(合格基準60)	最終試験100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	中国語、中国語、文学(日本文学や欧米文学)
教科書	なし(資料配付)
参考書	授業中に紹介する
連絡先	asanoj@big.ous.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	法学B (FB24Q050)
英文科目名	Law B
担当教員名	中西俊二* (なかにししゅんじ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	制限行為能力者および意思表示ならびに不法行為について講義する。教科書の表に基づいて制限行為能力者の比較をする。また、意思表示の錯誤、詐欺・強迫について説明する。さらに、不法行為については損害賠償に関して判例「富貴丸事件」を取り上げることとする。使用者責任(民715条)については、最高裁昭和39年2月4日の損害賠償請求事件を用い外形理論について考察する。
2回	民法の最終回として親族法と相続法を講義する。婚姻・離婚に関する判例を取り上げ判例の流れを説明する。特に離婚の効果について相続については、法定相続分、限定承認、遺留分制度等について解説する。
3回	今回から5回にわたって刑法を講義する。刑法とは何かについて問題提起し、旧派と新派の刑法理論を概観する。刑法の大原則である罪刑法定主義について、意義・内容・機能(人権保障機能)について解説する。また、犯罪の定義を踏まえて、犯罪成立のための因果関係理論について判例に基づいた考察をする。
4回	不作為犯と事実の錯誤について講義する。不真正不作為犯の要件としての作為義務ならびに故意に関する客体の錯誤と方法の錯誤の問題について考察する。新宿西口で発生した強盗殺人未遂事件に関する最高裁の判例を事例として取り上げることとする。
5回	違法阻却事由の代表である「正当防衛」と「緊急避難」について講義する。なぜ正当防衛あるいは緊急避難のためにした行為は違法性がなくなるのか、本質・「止むを得ない行為」と補充の原則・法益の均衡等の観点から両者の比較考察をする。「喧嘩と正当防衛」について、最高裁の殺人被告事件を引用する。
6回	「過剰防衛」と「過剰避難」の意義と「過剰」についての認識について解説する。判例としては、最高裁昭和34年2月5日の殺人被告事件を取り上げ量的過剰について理解を深めることとする。また、誤想過剰防衛の例として「英国騎士道事件」を引用し、刑法36条2項の問題を考察する。責任阻却事由としての故意の問題を扱い、有名な「たぬき・むじな」事件「もま・むさび事件」について見識を広めることとする。さらに、未遂犯と不能犯についても言及する。
7回	共犯について講義する。共同正犯・教唆犯・幫助犯とは何か。間接正犯とは何かについて、事例を挙げて考察する。共同正犯の要件および共謀共同正犯を理解するために最高裁判決「練馬事件」を事例として引用する。さらに、共犯と中止犯および離脱の問題を判例の事例を通して解説する。
8回	刑法の重要判例を取り上げ、論点の総括を行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書をよく読み、意思表示に基づく法律行為について予習しておくこと。60分。
2回	教科書をよく読み、婚姻と離婚について予習しておくこと。60分。
3回	教科書をよく読み、刑法の概略について予習しておくこと。60分。
4回	教科書をよく読み、不作為犯について予習しておくこと。60分。
5回	教科書をよく読み、正当防衛と緊急避難について予習しておくこと。60分。
6回	教科書をよく読み、過剰防衛について予習しておくこと。60分。
7回	教科書をよく読み、共犯について予習しておくこと。60分。
8回	講義で取り扱った、民法および刑法の事項と内容をよく復習して試験に臨むこと。120分。

講義目的	基本三法と言われる憲法・民法・刑法について、基礎的知識を身につけ、日々生起する事件等について法的思考力(リーガルマインド)に基づき自主的解決が導き出せるようにする。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
達成目標	公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成する。
キーワード	法の解釈、信義誠実の原則、罪刑法定主義
成績評価(合格基準60)	小テスト(20点)/最終評価試験(80点)
関連科目	日本国憲法
教科書	テキスト法学(第3版)/中西俊二著/大学教育出版/9784864293730;法学六法18/石川明・池田真朗編/信山社
参考書	現代社会における法学入門第2版/斎藤信幸/成文堂

連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題を小テストとして、ミシン線に沿って切り取り提出してもらうので、受講に当たっては教科書を必ず持参すること。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB24Q060)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)
5回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5) ・グループワークのためのグループ分け
6回	グループワーク1(グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
7回	グループワーク2(グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
8回	まとめ,最終評価試験

回数	準備学習
1回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間90分)
8回	今までの事を反芻し、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「 国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価(合格基準60)	グループワークでの発表を60点満点、最終評価試験を40点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	身近な生物学 (FB24Q070)
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	猪口雅彦 (いのぐちまさひこ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【生き物の世界の多様性と秩序～系統と分類】地球には多様な生物が生きている。互いに似ているものもあれば、非常に異なっているように見えるものもある。生物の種とは何か、系統と分類について解説する。
2回	【宇宙の誕生から生命の誕生へ～生命の起源と初期進化】地球における生命の誕生は、宇宙の進化の結果である。そして、地球上での生物の進化は地球環境の変化の結果である。生命の起源と初期進化の過程について解説する。
3回	【地球環境の変化と生物の変化～生物進化】生物種は長い時間のうちに変化することを免れない。そのような生物種の変化を進化とよぶ。生物進化の原理について解説する。
4回	【生物と生物、生物と環境の関係～生態系】私たちは周りの生物はお互いに関係をもっている。私たちは生活する環境に影響を受けると同時に、私たちの生活も環境に影響を与える。生態系について一般的に解説する。
5回	【多様な環境が生む多様な生態系～バイオーム】生態系は地域の環境によって異なった様相を示す。さまざまな環境に見られる生物群集について解説する。
6回	【多様な生き物とうまく付き合うために～生物間相互作用】私たちはさまざまな生物を食べて生きている。また、食物や生活場所をめぐる他の生物と争う。生態系における生物間の相互作用について解説する。
7回	【この世は「弱肉強食」?いいえ、「全肉全食」です～生態系の物質循環とエネルギーの流れ】地球の生態系の物質は完全にリサイクルされている。物質の変化にはエネルギーの変化が伴う。生態系における物質の循環とエネルギーの流れについて解説する。
8回	【私たちが生き続けることのできる環境を維持するために～地球環境の保全】これまでの学習を通して振り返り、地球環境の保全の意義と、そのために私たちが何をなすべきかについてグループディスカッションを行う。

回数	準備学習
1回	[予習課題] なし [事後課題] 講義中に指定した生物の種類の中から「1種」選び、その種の和名と学名および特徴を調べる。 (標準学習時間: 30分)
2回	[予習課題] 宇宙の誕生、地球の誕生、地球上の生命の誕生がそれぞれ何億年前に起こったと考えられているか調べる。 [事後課題] 生命の起源の仮説をひとつ調べる。 (標準学習時間: 計40分)
3回	[予習課題] 地球が誕生してから現在までの大気中の酸素濃度の変化を調べる。 [事後課題] 真核細胞の進化における細胞内共生説の根拠を調べる。 (標準学習時間: 計40分)
4回	[予習課題] 地球環境の変化が生物に大きな影響を与えた例と、私たち人類の生活が自然環境に大きな影響を与えた(与えている)例をそれぞれひとつずつ調べる。 [事後課題] 講義中に指定した地質年代に起こった生物進化上のイベント(例えば、新生代であれば「現生人類の誕生」のような出来事)をひとつ調べる。 (標準学習時間: 計40分)
5回	[予習課題] 自分の出身都道府県の地域の原生林の主な樹種を調べる。 [事後課題] 改めて、自分の出身地のバイオームと、その代表的な樹種について調べる。 (標準学習時間: 計40分)
6回	[予習課題] 野生動物とヒトの生活との間で問題になっている事例をひとつ調べる。 [事後課題] 講義中に指定した関係にある2種類の生物の具体例を調べる。 (標準学習時間: 計40分)
7回	[予習課題] 自分が日頃からたくさん食べている生き物の種類を調べる。 [事後課題] 地球全体の生態系における窒素の循環において人類の営みが果たす役割を調べる。 (標準学習時間: 計40分)

8回	<p>[予習課題] 自分が気にかかる「環境問題」について具体例をひとつ挙げて、その原因を調べ、解決策について考える。</p> <p>[事後課題] 第8回講義でグループで討議した内容について簡潔にまとめる。</p> <p>(標準学習時間：計40分)</p>
講義目的	<p>生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解する。</p> <p>(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)</p>
達成目標	<p>私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができる。</p>
キーワード	<p>分類、進化、生態系</p>
成績評価 (合格基準60)	<p>提出課題50%、確認テスト50%を評価し、総計で60%以上を合格とする。最終評価試験は行わない。</p> <p>ただし、事後課題の提出回数と確認テストの受験回数のいずれか一方でも6回未満の場合は履修を放棄したものとする。</p>
関連科目	<p>身近な生物学 I、その他生物系基礎科目全般</p>
教科書	<p>使用しない。</p>
参考書	<p>特に指定しない。</p>
連絡先	<p>A1号館7階730号室 ino@dbc.ous.ac.jp</p>
注意・備考	<p>課題の提出、確認テストともにMOMO CAMPUSで行う。提出された課題についてのフィードバックと確認テストの正答開示もMOMO CAMPUSの機能を用いて行う。</p> <p>講義中にWeb上のサービスを利用したアクティブラーニング (即時アンケートなど) を行うので、スマートフォン、タブレット端末、ラップトップPCなどのインターネットに接続されたモバイル端末を用意することが望ましい (無くても単位認定には関わらない)。</p> <p>一部、アクティブラーニングとして受講者によるワークショップやグループディスカッションを含む回がある。</p> <p>「身近な生物学 I」と「身近な生物学 II」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。</p>
試験実施	<p>実施する</p>

科目名	哲学B (FB24Q080)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。
2回	インド哲学 (1) インド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。
3回	インド哲学 (2) インドの「六派哲学」と現代へのその影響を説明する。
4回	中国哲学 (1) 諸子百家の思想を説明する。
5回	中国哲学 (2) 朱子学と陽明学を説明する。
6回	イスラーム哲学 (1) キンディーとファーラービーの哲学を説明する。
7回	イスラーム哲学 (2) イブン・スィナーとガザーリーの哲学を説明する。
8回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、インド、中国、およびイスラーム文化圏の哲学を通して、代表的な東洋哲学をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。各文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。

	過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
成績評価（合格基準60）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） 授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学A、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【木3木4】(FB24R010)
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二*(なかにししゅんじ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 3時限 / 木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能をはたしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	国民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および国民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ボポロ事件」を取り上げることにする。
11回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準のの区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由に焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18じょうの「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の捜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることにする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。
2回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4回	教科書をよく読み民主制とへいわしゅぎについて予習しておくこと。60分。
5回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分。
9回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
10回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
11回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
12回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分。
13回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
14回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
15回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習しておくこと。60分。
16回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法問題解決の思考力を身につけること。
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
成績評価（合格基準60）	レポート（20点）、小テスト（20点）、最終評価試験（60点）
関連科目	法学
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2 ;『法学六法』/ 石川明・池田真朗等編/信山社
参考書	テキスト『法学第3版』（大学教育出版、2015年）等
連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題(小テスト)をミシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24R030)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について) を行い、文章を書く際の注意点を説明する。
2回	正しい根拠にたどり着く方法 (資料の検索方法、見分け方、インターネットと出版物など) を説明する。
3回	リーディングの技術 (1) 文章の構造分析と要約の方法を説明する。
4回	リーディングの技術 (2) 文章の構造分析と要約の方法を説明する。
5回	リーディングの技術 (3) 文章の構造分析と要約の方法を説明する。
6回	ライティングの技術 (1) 5段落から成る文章の書き方を説明する。
7回	ライティングの技術 (2) 5段落から成る文章の書き方を説明する。
8回	これまでに学習した内容の総括を行い、課題についての注意点を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「文章を書くうえで注意すべき点は何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義の目的は、論文やレポートの作成といった大学での学びに限らず、社会に出てからも日誌や報告書の作成などといった様々な場面で必要となる文章の書き方を身につけることである。「読みやすい文章」「わかりやすい文章」を書くのはもちろんのこと、「説得力のある文章」を書くのに必要なスキルの習得に重点を置く。最初に資料や根拠の扱い方を説明し、その後で、「説得力のある文章」の構成方法を具体的に学んでいく。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関
------	--

	与する)
達成目標	文章を書く際に気を付けるべき点に注意し、読みやすく、わかりやすい文章を書くことができる。 適切な順序で文章を構成し、信頼できる根拠に基づいて、説得力のある文章を書くことができる。
キーワード	文章表現、レポート、論文
成績評価（合格基準60	・毎回の授業内で使用するワークシートの提出（60％） ・課題提出（40％） 早退・遅刻は2回で1回の欠席とし、授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編A、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・受講者数の上限は50名とする。 ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業には必ず国語辞典を持参すること。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間B (FB24R040)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価(合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座 B (FB24R050)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司* (いいたてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 (桑田 朋美*)
2回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司*)
3回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー&ビジネスマナーの考え方と意味を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美*)
4回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
5回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司*)
6回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
7回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
8回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
2回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)

7回	自分をコントロールするとはどういうことか、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
8回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。(標準学習時間 60分)
講義目的	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価(合格基準60)	毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験(最終課題テスト) 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB24R060)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫/「文章スキルとプレゼン力」(緑版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24S010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2回	経験や知識の文章化に取り組む。
3回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5回	対立する意見を使って文章を構成する。
6回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法基礎編A、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著/「新・文章表現法 基礎編」(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時のみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座B (FB24S020)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司* (いいたてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 (桑田 朋美*)
2回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司*)
3回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー&ビジネスマナーの考え方と意味を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美*)
4回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
5回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司*)
6回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
7回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
8回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
2回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)

7回	自分をコントロールするとはどういうことか、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
8回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。(標準学習時間 60分)
講義目的	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価(合格基準60)	毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験(最終課題テスト) 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	経済学 B (FB24S030)
英文科目名	Economics B
担当教員名	横尾昌紀* (よこおまさのり*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について
2回	展開形ゲームの応用例(2):「裁量カルールか?」あるいは「なぜ大学の講義にシラバスが必要なのか?」
3回	非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡
4回	労働市場の分析(1):エイジェンシー問題,あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか?」
5回	労働市場の分析(2):シグナリングゲーム,あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか?」
6回	進化と合理性
7回	レプリケータダイナミクスと進化的安定戦略
8回	まとめ. 最終評価試験

回数	準備学習
1回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
2回	配布した資料を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
3回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
4回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
5回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
6回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
7回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
8回	全体を総復習してください。 (標準学習時間40分)

講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の中級部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況,すなわち,駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて,「戦略的思考」を身につけることを目的とします。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な展開形ゲームと戦略形ゲームの関連,およびナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡の関係を理解する。 ・簡単な不完備情報のゲームの記述法を理解する。 ・簡単な不完備情報ゲームで完全ベイジアン均衡を求める。 ・簡単なレプリケータダイナミクスの記述の仕方を理解し分析する。
キーワード	経済学,戦略,戦略的状況,戦略的思考,ゲーム理論,ナッシュ均衡,部分ゲーム完全均衡,完全ベイジアン均衡,進化。
成績評価(合格基準60)	課題提出(20%),最終評価試験(80%)
関連科目	社会と人間
教科書	ゲーム理論・入門/岡田章著/有斐閣アルマ/9784641123625
参考書	『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』,梶井厚志・松井彰彦著,日本評論社
連絡先	電子メール: yokoo@e.okayama-u.ac.jp
注意・備考	参考書として挙げた『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』(以前教科書として指定)をすでに入手している場合は,新たに教科書を買う必要はありません。最終評価試験の「過去問」を授業の最初の方で配布しますので,入手漏れがないように気をつけてください。

試験実施	実施する

科目名	身近な生物学 (FB24S040)
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	森本政秀* (もりもとせいしゅう*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生物と環境はどのように作用しているか、解説する。
2回	生物の個体群はどのように変化するのか、解説する。
3回	生態系の中での物質循環、エネルギーの流れについて解説する。
4回	環境問題について解説する。
5回	動物の行動について解説する。
6回	生物はどのように誕生し、進化したかについて解説する。
7回	生物の進化のしくみ、証拠について解説する。
8回	生き物を系統よっての分類について解説する。

回数	準備学習
1回	生物と環境について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
2回	生物の個体群について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
3回	物質の循環について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
4回	環境について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
5回	動物の行動について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
6回	生物の進化について予習を行うこと。(標準学習時間90分)
7回	生物の進化のしくみについて予習を行うこと。(標準学習時間90分)
8回	生き物の分類について予習を行うこと。(標準学習時間90分)

講義目的	生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解する。 (理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができる。
キーワード	生態系
成績評価(合格基準60)	毎回の提出課題50%、毎回行う小テストの結果50%を評価し、総計で60%以上を合格とする。最終評価試験は行わない。
関連科目	「身近な生物学」
教科書	やさしい基礎生物学 第2版/南雲保/羊土社
参考書	特に指定しない
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科,生物化学科,臨床生命科学科,動物学科,バイオ・応用化学科,生命医療工学科,生物地球学科 「生物学基礎論」の一部の内容が重複する可能性があるため、「生物学基礎論」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学」の履修を避けること。 講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り、プロジェクターに映し出される画像・小テストの内容のみ許可をする。 提出した課題は、添削をして次回の講義時に返却し、前回の復習として小テストの解説をすることでフィードバックを行う。 「身近な生物学」と「身近な生物学」はある程度の順序性があるので、連続受講を推奨する。
試験実施	実施しない

科目名	身近な地学 (FB24S050)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあり、大きさがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素は星の中で生まれたことも説明する。
4回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8回	地球温暖化、環境汚染(放射能汚染)など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
3回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみしておくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
7回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
8回	最終評価試験を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。(標準学習時間: 180分)

講義目的	自然界では、さまざまな時間空間スケールでエネルギーと物質が循環していることを認識することが基本である。本講義では、まず、人類が地球や宇宙をどのようにして知り、現代の地球観、宇宙観に至ったのか概観する。そして、地球表層の大気と水が太陽と地球のエネルギーを駆動源として循環しており、その過程が天気、風、雨、川などとして身近に現れていることを学習する。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙が膨張していることがどのようにして明らかにされたのかを知っている。 ・宇宙のはじまり、物質の生成、宇宙の歴史の概要を知っている。 ・地球の歴史を通じて、地球上の大気と水がどのようにして形成されたのかを知っている。 ・地球表層の温度はどのようにして決まるのかを理解している。 ・大気と水が地球規模でどのように循環しているのかを理解している。 ・身近におこっている気象・水循環のメカニズムの概要を理解している。 ・温暖化の問題など、地球環境について考えることができるようになっている。
キーワード	宇宙, 太陽系, 太陽放射, 大気の循環, 水の循環, 気象, 地球環境, 地球温暖化
成績評価(合格基準60)	毎回講義の小レポート(50点)と最終評価試験(50点)により評価する。

関連科目	身近な物理学 と身近な化学 を受講していることが望ましい。
教科書	なし
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
注意・備考	提出課題については、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。 講義資料は講義開始時に配布する。 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物地球学科 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	インターンシップ概論 (FB24S060)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い,講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
3回	自己PRの基礎について説明する.
4回	自己PRの基礎について説明する.
5回	企業研究について説明する.
6回	面接実践演習を通して,具体的な面接の仕方を説明する.
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
8回	インターンシップに行くために自己PR,企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み,インターンシップの意義などを確認しておくこと.(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと.(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて,提出するために推敲しておくこと.(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて,自己PRの確認,面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと.(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは,すべて完了しておくこと.(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること.(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは,企業・団体などにおいて,学生が将来の職業,キャリア選択を意識した就業体験をすることによって,社会や企業の実情を知り,学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに,大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です.本講義では,インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と,インターンシップ後の報告などの事後指導を通して,インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後,自らの経験をまとめるとともに,プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ,企業研究,面接対策,企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%,レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ~キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践~」/株式会社理想経営/株式会社理想経営
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME.必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C、社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険:インターンシップ前に,学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	インターンシップ概論 (FB24S070)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い,講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
3回	自己PRの基礎について説明する.
4回	自己PRの基礎について説明する.
5回	企業研究について説明する.
6回	面接実践演習を通して,具体的な面接の仕方を説明する.
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
8回	インターンシップに行くために自己PR,企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み,インターンシップの意義などを確認しておくこと.(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと.(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて,提出するために推敲しておくこと.(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて,自己PRの確認,面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと.(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは,すべて完了しておくこと.(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること.(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは,企業・団体などにおいて,学生が将来の職業,キャリア選択を意識した就業体験をすることによって,社会や企業の実情を知り,学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに,大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です.本講義では,インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と,インターンシップ後の報告などの事後指導を通して,インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後,自らの経験をまとめるとともに,プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ,企業研究,面接対策,企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%,レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C,文章表現法,文章表現法,プレゼンテーション,プレゼンテーション,教養演習,企業と人間,キャリア形成講座,企業情報特論,社会・産業実習
教科書	教科書は使用しない.
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME.必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C,社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと. 賠償保険:インターンシップ前に,学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間B (FB24S080)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけることを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価(合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学D(コンピュータで理解する周期表の世界)(FB24T010)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	坂根弦太(さかねげんた)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。この講義でのコンピュータの基本的な使い方(教育用原子軌道・分子軌道計算システムeduDVの使い方)について解説する。
2回	現代の生活において、元素という概念がどのように使われているか、説明する。元素と周期表の関係についても説明する。
3回	元素と原子の違い、原子の内部構造について説明する。原子の大きさをコンピュータで計算し、周期表との関係を説明する。
4回	いろいろな原子のいろいろな電子の姿をコンピュータで三次元可視化し、小さすぎて見えないミクロの世界をコンピュータ画面で立体的に眺めながら解説する。
5回	現代の生活における身近な分子を紹介し、コンピュータで分子の構造を描き、三次元可視化しながら分子の形について解説する。
6回	現代の生活における身近な物質の色について、なぜその色なのか、コンピュータで計算し、その原理を解説する。
7回	液体窒素は磁石にくっつかないが、液体酸素は磁石にくっつく。なぜ物質の種類によって磁性が違うのか、コンピュータで計算し、その原理を解説する。
8回	1回~7回までの総括を説明する。最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	波動関数の三次元可視化の仕方について復習を行うこと。第2回目授業までに、参考書などにより、元素と周期表に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
2回	元素と周期表について復習を行うこと。第3回目授業までに、参考書などにより、原子の内部構造(陽子、中性子、電子)に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
3回	原子の内部構造について復習を行うこと。第4回目授業までに、参考書などにより、原子軌道に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
4回	原子軌道について復習を行うこと。第5回目授業までに、参考書などにより、分子軌道に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
5回	分子軌道について復習を行うこと。第6回目授業までに、参考書などにより、電子遷移(色の原因)に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
6回	電子遷移について復習を行うこと。第7回目授業までに、参考書などにより、磁性(磁石にくっつく物質、くっつかない物質)に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
7回	磁性について復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目~第7回目授業の内容について復習を行うこと(標準学習時間120分)
8回	ここまで授業内容についての復習を行うこと(標準学習時間120分)

講義目的	現代を生きる私たちは、物質に囲まれている。私たち自身も物質である。すべての物質は周期表の元素の組み合わせでできている。元素の実体は原子である。しかし原子の世界は小さすぎて、私たちが直接見たり触ったりすることはできない。この講義ではコンピュータを使い、原子の世界を計算して三次元可視化する。ミクロの不思議な世界を実感し、マクロの物質の世界をミクロの視点から人に説明できるようになることを目的とする。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	(1)元素と原子の違いを説明できる (2)コンピュータで化学構造式を描ける (3)コンピュータで原子・分子の電子状態を計算して三次元可視化できる (4)周期表がなぜあのような形をしているのか、実感を伴ったミクロの世界の知識から説明できる (5)物質の性質(色や磁性など)をコンピュータで計算して説明できる
キーワード	コンピュータ、周期表、元素、原子、電子、量子論、分子、三次元可視化、電磁波、磁性
成績評価(合格基準60)	課題提出20%、小テストの結果20%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	特定の分野の基礎知識の習得を前提としない。
教科書	使用しない

参考書	新版はじめての電子状態計算 - DV-X 分子軌道計算への入門 - / 足立裕彦、小笠原一禎、小和田善之、坂根弦太、水野正隆 / 三共出版 / 978-4782707678
連絡先	A1号館3階 理学部化学科 無機元素化学(坂根)研究室 e-mail: gsakane@chem.ous.ac.jp http://www.chem.ous.ac.jp/~gsakane/
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義は情報処理センターの演習室で、1人1台のパソコンを使いながら行う。 ・この講義では講義資料を紙に印刷して講義時間内に配布する。 ・講義中の録音/録画は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影(静止画)は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。 ・課題提出については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・小テストについては、小テスト回収後に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・情報処理センター演習室を使用する必要があるため、部屋の収容定員を超える場合は受講制限をする。
試験実施	実施する

科目名	インターンシップ概論 (FB24T030)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い,講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
3回	自己PRの基礎について説明する.
4回	自己PRの基礎について説明する.
5回	企業研究について説明する.
6回	面接実践演習を通して,具体的な面接の仕方を説明する.
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
8回	インターンシップに行くために自己PR,企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み,インターンシップの意義などを確認しておくこと.(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと.(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて,提出するために推敲しておくこと.(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて,自己PRの確認,面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと.(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは,すべて完了しておくこと.(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること.(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは,企業・団体などにおいて,学生が将来の職業,キャリア選択を意識した就業体験をすることによって,社会や企業の実情を知り,学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに,大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です.本講義では,インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と,インターンシップ後の報告などの事後指導を通して,インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後,自らの経験をまとめるとともに,プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ,企業研究,面接対策,企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%,レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/株式会社理想経営/株式会社理想経営
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME.必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C、社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険:インターンシップ前に,学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	インターンシップ概論 (FB24T040)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い,講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
3回	自己PRの基礎について説明する.
4回	自己PRの基礎について説明する.
5回	企業研究について説明する.
6回	面接実践演習を通して,具体的な面接の仕方を説明する.
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
8回	インターンシップに行くために自己PR,企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み,インターンシップの意義などを確認しておくこと.(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと.(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い,自己PRを考えておくこと.(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて,提出するために推敲しておくこと.(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて,自己PRの確認,面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと.(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは,すべて完了しておくこと.(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること.(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは,企業・団体などにおいて,学生が将来の職業,キャリア選択を意識した就業体験をすることによって,社会や企業の実情を知り,学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに,大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です.本講義では,インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と,インターンシップ後の報告などの事後指導を通して,インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後,自らの経験をまとめるとともに,プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ,企業研究,面接対策,企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%,レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C,文章表現法,文章表現法,プレゼンテーション,プレゼンテーション,教養演習,企業と人間,キャリア形成講座,企業情報特論,社会・産業実習
教科書	教科書は使用しない.
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME.必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C,社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと. 賠償保険:インターンシップ前に,学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24U010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	生田夏樹 * (いくたなつき *)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	与えられたテーマB(「私の職業観」)の文章を作成する(1) 第9課題:アウトラインを作成する。
2回	与えられたテーマB(「私の職業観」)の文章を作成する(1) 第10課題:本文を作成する。
3回	与えられたテーマC(「創造性について」)の文章を作成する(1) 第11課題:アウトライン1回目を作成する。
4回	与えられたテーマCの文章を作成する(1) 第12課題:アウトライン2回目を作成する。
5回	与えられたテーマCの文章を作成する(2) 第13課題:本文を作成する。
6回	与えられたテーマD(「情報について」)の文章を作成する(1) 第14課題:アウトライン1回目を作成する。
7回	与えられたテーマDの文章を作成する(2) 第15課題:アウトライン2回目を作成する。
8回	与えられたテーマDの文章を作成する(3) 第16課題:本文を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えること。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみること。(標準学習時間120分)
4回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
6回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみること。(標準学習時間120分)
7回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価(合格基準60)	課題提出7回分(56%)、最終評価試験(44%)、60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法基礎編A」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」

教科書	なし。
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	心理学 B (FB24U020)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	松浦美晴* (まつうらみはる*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。
2回	「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。
3回	「援助行動・攻撃行動」について説明する。
4回	「集団と個人」について説明する。
5回	「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。
6回	「人間のコミュニケーション行動」について説明する。
7回	「情報と人間行動」について説明する。
8回	「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	教科書第7章のp.69~76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)
3回	教科書第7章のp.77~80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4回	教科書第8章のp.85~89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5回	教科書第8章のp.89~92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6回	教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7回	教科書第10章に目を通してこくること。(標準学習時間60分)
8回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解し、トピックと理論について知り、それらを説明できるようになる。
キーワード	こころの理解、認知、感情、集団、社会行動
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)
関連科目	心理学A
教科書	生活にいかす心理学ver.2/古城和子(編著)/ナカニシヤ出版/4888487057
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL:086-272-6254(代表)
注意・備考	日常の経験を振り返り、その裏付けとして授業の内容を捉え、人間についての理解を深めることを望む。
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB24V010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部, 建築学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5回	* ケーススタディ 取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8回	総括

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。(教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する)
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	
注意・備考	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

試験実施	実施しない
------	-------

科目名	比較文化論B (FB24V020)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。
2回	ドイツにおける宗教の問題について説明する。
3回	オーストリア事情について説明する。
4回	ドイツの今後の課題について説明する。(1)(再統一の影響、文化の多元性を中心に)
5回	ドイツの今後の課題について説明する。(2)(多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)
6回	ドイツの今後の課題について説明する。(3)(EUとユーロを中心に)
7回	ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。
8回	日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。 最終評価試験を実施する。 試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	テキストの100～118ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの119～130ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの131～142ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの143～150ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの150～165ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの165～178ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	テキストの180～184ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	試験の準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	異質な文化圏との比較を通じて自らの価値観を常に相対化することは、今日の社会を生きるために欠かせない姿勢である。本講義では、日本とドイツを比較し、文化の特殊・普遍の諸相について考察する。このことを通じて、受講生が固定化した価値観を柔軟に相対化できるよう、その手がかりの提供を目指す。「比較文化論B」では今後のドイツの課題に関することを主に扱う。(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。)
達成目標	文化の多様性について認識できること。さまざまな習慣の相違に遭遇したとき、優劣を問うのではなく、相違を生み出す文化的背景に関心を持つことができること。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	比較文化論A、文学A、文学B
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
参考書	適宜指示する。
連絡先	B1号館2階 高池研究室
注意・備考	・新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。 ・中間試験・最終評価試験終了後解説を行なう。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	経済学 B (FB24V030)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山下賢二* (やましたけんじ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に企業行動の原則と生産関数について講義する。
2回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。
3回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と費用関数の関係について講義する。
4回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特にS字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。
5回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に完全競争市場、厚生分析について講義する。
6回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に独占市場について講義する。
7回	マクロ経済理論の基礎を講義する。 特に短期と長期の違いを強調する。
8回	7回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (標準学習時間60分)
2回	1.微分の復習をしておくこと2.第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間60分)
3回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
4回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
5回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
6回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
7回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
8回	全体の復習をしておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。経済学Bでは、ミクロ経済学のうち企業理論と市場理論を講義し、マクロ経済学の基本的な部分を講義する。
------	---

	(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)
達成目標	基本的な経済理論を理解できるようになること, 様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになること
キーワード	ミクロ経済学・マクロ経済学・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)
関連科目	
教科書	1からの経済学 / 中谷武・中村保編著 / 碩学舎 / 中央経済社 / 9784502680809 プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)
参考書	適宜指示する。
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 kenyamashita@po.osu.ac.jp
注意・備考	講義では, 微分(偏微分・全微分含む)を多用する。高校で微分を既に学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	環境と社会 B (FB24V040)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	剣持堅志* (けんもつかたし*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。
6回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。
8回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
1回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
3回	化学物質汚染について、参考書 3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
4回	循環型社会について、参考書 3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
6回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
7回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
8回	各主体の役割と取り組みについて、参考書 5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。

	また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間120分） 評価試験の範囲は1～8回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。 過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。 更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、 また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 （教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。）
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能（AI）の進化、環境マネジメントシステム、ライフスタイルの変革
成績評価（合格基準60	中間評価試験（50%）及び最終評価試験（50%）で成績を評価し、 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/ 日本能率協会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C 3051 不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-427000181 3) 地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) 生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB24W010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部, 知能機械工学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5回	* ケーススタディ 取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8回	総括

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。(教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する)
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	
注意・備考	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

試験実施	実施しない
------	-------

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24W020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのみあき*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のバターンについて解説する。
2回	経験や知識の文章化に取り組む。
3回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5回	対立する意見を使って文章を構成する。
6回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入室は禁じる。5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時のみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB24W030)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。
2回	ドイツにおける宗教の問題について説明する。
3回	オーストリア事情について説明する。
4回	ドイツの今後の課題について説明する。(1)(再統一の影響、文化の多元性を中心に)
5回	ドイツの今後の課題について説明する。(2)(多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)
6回	ドイツの今後の課題について説明する。(3)(EUとユーロを中心に)
7回	ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。
8回	日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。 最終評価試験を実施する。 試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	テキストの100～118ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの119～130ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの131～142ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの143～150ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの150～165ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの165～178ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	テキストの180～184ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	試験の準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	異質な文化圏との比較を通じて自らの価値観を常に相対化することは、今日の社会を生きるために欠かせない姿勢である。本講義では、日本とドイツを比較し、文化の特殊・普遍の諸相について考察する。このことを通じて、受講生が固定化した価値観を柔軟に相対化できるよう、その手がかりの提供を目指す。「比較文化論B」では今後のドイツの課題に関することを主に扱う。(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。)
達成目標	文化の多様性について認識できること。さまざまな習慣の相違に遭遇したとき、優劣を問うのではなく、相違を生み出す文化的背景に関心を持つことができること。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	比較文化論A、文学A、文学B
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
参考書	適宜指示する。
連絡先	B1号館2階 高池研究室
注意・備考	・新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。 ・中間試験・最終評価試験終了後解説を行なう。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	法学B (FB24W040)
英文科目名	Law B
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	司法制度についての概説の講義を行う。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
2回	裁判官という法律家についての講義を行う。 [内容] 司法権の独立と裁判官の市民的自由
3回	検察官という法律家についての講義を行う。 [内容] 検察官の職務内容、検察審査会、検察の不祥事とその防止策
4回	弁護士という法律家についての講義を行う。 [内容] 弁護士の使命、弁護士偏在の問題、法テラス、当番弁護士制度
5回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策
6回	国民の司法参加についての講義を行う。 [内容] 諸外国の国民の司法参加 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点
7回	民事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
8回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
1回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。インターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	第1回の授業で説明した裁判所の種類と三審制度について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	第2回の授業で扱った裁判官の市民的自由の問題について、なぜその問題が重要なのか、またどのようにあるべきなのかについて自身の考えをまとめておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	第3回の授業で扱った検察官の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、検察審査会の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	第4回の授業で扱った弁護士の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、法テラスや当番弁護士制度の内容や重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業内容の刑事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと (特に有罪・無罪の判定について)。最高裁判所のHP等で裁判員制度の紹介をしている箇所を見つけて、おおよその内容を調べておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第6回の授業で説明した諸外国の国民の司法参加と日本の裁判員制度の異同について正確に理解し、整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第7回授業内容の民事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと (特に和解について)。また、刑事裁判との異同についてきちんと整理しておくこと。第1回～第7回授業内容について復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事案や裁判例を交えて分かりやすく解説し、また法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
------	--

達成目標	司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得すること。六法を使って必要な条文が検索できるようになること。司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できるようになること。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度
成績評価（合格基準60）	授業内小テスト・レポート（計2回、各20%）+最終評価試験（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	法学A、日本国憲法
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表）/ 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館（旧24号館）4階研究室
注意・備考	<p>指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。</p> <p>授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。</p> <p>テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。</p> <p>小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。</p> <p>新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。</p>
試験実施	実施する

科目名	日本の文化と歴史 B (FB24W050)
英文科目名	Culture and History of Japan II B
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：講義の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、平安時代を概観し、この時代の諸文化についてOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
2回	前回到続いて、平安時代の文化を説明した後、時間的余裕があれば、鎌倉時代を概観する
3回	鎌倉時代の文化について、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
4回	鎌倉時代の文化を補足説明した後、室町時代を概観し、その文化についてOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
5回	室町時代の文化について補足説明の後、安土桃山時代を概観し、その文化についてOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
6回	安土桃山時代の文化について補足説明した後、江戸時代を概観し、この時代の文化をOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
7回	江戸時代の文化の補足説明の後、明治時代の概観とその文化について、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。さらに、これまでの講義内容の整理と、まとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた日本の文化とその歴史の補足説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスの注意事項を熟読し、さらに平安時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
2回	平安時代の文化をノートを中心に復習すること。鎌倉時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	鎌倉時代の文化について、ノートを中心に復習すること。室町時代の文化について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	室町時代の文化について、ノートを中心に復習し、安土桃山時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	安土桃山時代の文化について、ノートを中心に復習し、江戸時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	江戸時代の文化について、ノートを中心に復習し、明治時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第1回からこれまでに習った事柄のまとめと整理を各自おこない、疑問点があれば次回に質問すること。(標準学習時間 120分)
7回	明治時代の文化について、ノートを中心に復習すること。第1回からこれまでの講義のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	この回を含めて、いままでの講義内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	日本人の過去の生活から生み出され、醸成されてきた日本の様々な文化について、平安時代から明治時代までの各時代におけるその特色や、歴史的な形成過程をみていく。このことによって、外国人留学生の日本文化に対する理解を深め、さらには日本人や、日本の生活に一層の理解と親近感を増してもらうことを目的とする。(教養教育センターの単位認定方針項目Bにもっとも強く関与する)
達成目標	1. 日本の文化や、日本人の暮らしぶりを理解する。 2. 日本の歴史について、概略を習得する。 3. 日本の文化と母国の文化との差違、類似点を説明できる
キーワード	“日本史”、“日本文化史”、“日本思想史”
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価する。
関連科目	日本の文化と歴史IIA

教科書	使用しない。講義の進行過程で資料をプリント等で配布する。
参考書	講義の進行過程で、適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	<p>(1)この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。(学生便覧参照)</p> <p>(2)毎回出欠をとる。</p> <p>(3)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。</p> <p>(4)講義資料は主に講義開始時に配布する。特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、Momo-campus等を利用して配布することがある。この場合は、事前に連絡する。</p> <p>(5)講義中の録音/録画/撮影等は原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。</p> <p>(6)試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。</p> <p>(7)毎回、辞書(電子辞書で良い)を持参すること。</p>
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB24X010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやし のりあき*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2回	経験や知識の文章化に取り組む。
3回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5回	対立する意見を使って文章を構成する。
6回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時のみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	身近な数学 (FB24X020)
英文科目名	Mathematics closely related to our daily lives II
担当教員名	濱谷義弘 (はまやよしひろ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部(18~),工学部(18~),総合情報学部(18~),生物地球学部(18~),経営学部(18~)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	不思議な数たち
2回	ダビンチ・コード・黄金比 -
3回	お見合いの戦略
4回	総合演習とその解説をする。
5回	恋愛の数理
6回	ゲーム理論
7回	少子化問題・結婚の数理 -
8回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書第2、3章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
2回	教科書第4、5章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
3回	教科書第7章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
4回	第3回の講義ノートの復習を行うこと(標準学習時間:2時間)
5回	教科書第12章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
6回	教科書第14章を読んでおくこと(標準学習時間:1時間)
7回	第5、6回のノートを見ておくこと(標準学習時間:1時間)
8回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間:3時間)

講義目的	本講義では、日常生活での出来事や社会の仕組みに関連する事柄に内在する数学的論理および数学的思考を紹介する。また、身近に起こる事柄をどのように数理モデル化するかについても紹介する。それらを通して、各種数理モデルを理解することが目的である。(数学・情報教育センターの学位授与方針 A に強く関与する)
達成目標	各種の数理モデルを理解するための知識を身につける。
キーワード	フィボナッチ数列, 黄金比,
成績評価(合格基準60%)	総合演習(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	なし
教科書	数理と社会(身近な数学でリフレッシュ)/河添 健/数学書房/978-4-903342-82-5
参考書	指定なし
連絡先	B05号館3階 濱谷研究室 (オフィスアワーは mylog を参照のこと)
注意・備考	・以下の学科は内容が専門に近いので受講を許可しないことがある。応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科。・また, 100名を超える場合も受講制限することがある。・総合演習に対するフィードバックは, 講義内で解説を行うこととする。・講義中の録音/録画/撮影は原則認めないが, 特別の理由がある場合事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	日本史 B (FB24X030)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	小林博昭 * (こばやしひろあき *)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。授業の進め方を説明したのち、古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。
2回	古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。
3回	古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
4回	前回到続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
5回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6回	前回到続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。
7回	古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジステックス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。最終評価試験を実施する。(試験会場等の関係で、8回目に最終試験実施が困難な場合、通常通り講義をおこない、試験予備日に同試験を実施することがある)

回数	準備学習
1回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)
2回	古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第1回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、我が国の国家形成史上、最もミステリアスな時代といわれる古墳時代前期から乙巳の変後の大化の薄葬令発布前後までの時代における人類が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。(教養教育センターの単位認定方針項目Bにもっとも強く関与する)
達成目標	我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考

	察できる力を習得する。
キーワード	“ 古代史 ”、“ 古墳時代 ”、“ 前方後円墳 ”、“ ヤマト政権 ”
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価する。
関連科目	日本史A
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
参考書	授業の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	(1) 毎回出欠をとる。(2) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は、欠席扱いとなる。(4) 講義資料は主に講義開始時に配布する。特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、Momo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。(5) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。(6) 試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。(7) 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	論理学 B (FB24X040)
英文科目名	Logic B
担当教員名	中島聰 (なかしまさとし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	西洋の近現代の論理学について概説する。 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。
2回	帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴を説明する。
3回	命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成の手順を説明する。
4回	命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法を三つ説明する。
5回	命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)を説明する。
6回	述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を説明する。
7回	述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)を説明する。
8回	帰納論理学・命題論理学・述語論理学の基礎的な事項についての学習内容を復習する。 また最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)。
2回	教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	ここまでの授業内容について復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	西洋の近現代の代表的な三つの論理学を取り扱い、各論理学の核心的な事項を学習する。論理学は「人の正しい思考の規則・法則を明らかにする」基本的・形式的な学問である。主に各々の論理学の推論の技法を、事例をもとに習得するとともに、言語の記号処理の手法を学習する。これは、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力の向上にもつなげる。このように論理学Bは論理的推論の技法の学習と社会的場面での応用・展開を目的とする。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する)
達成目標	各論理学の基礎的な事項について正確な理解ができる。 さまざまな推論の問題演習を通して、その技法を習得することができる。 言語の記号処理と真偽の判定ができる。 社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開できる。
キーワード	論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理 論理式の真偽計算 述語と量化
成績評価(合格基準60)	最終評価試験により成績を評価する。 最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	「論理学A」を受講しているが望ましい。

教科書	論理学研究 / 中島 聡 / ふくろう出版 / 978-4-861865466
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照してください。
連絡先	
注意・備考	論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。
試験実施	実施する

科目名	環境と社会 B (FB24X050)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	剣持堅志* (けんもつかたし*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。
6回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。
8回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
1回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
3回	化学物質汚染について、参考書 3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
4回	循環型社会について、参考書 3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
5回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
6回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
7回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
8回	各主体の役割と取り組みについて、参考書 5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。

	また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間120分） 評価試験の範囲は1～8回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。 過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。 更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、 また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 （教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。）
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能（AI）の進化、環境マネジメントシステム、ライフスタイルの変革
成績評価（合格基準60	中間評価試験（50%）及び最終評価試験（50%）で成績を評価し、 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/ 日本能率協会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C 3051 不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-427000181 3) 地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) 生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	身近な地学 (FB24X060)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあり、大きさがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素は星の中で生まれたことも説明する。
4回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8回	地球温暖化、環境汚染(放射能汚染)など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
3回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみておくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
7回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
8回	最終評価試験を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。(標準学習時間: 180分)

講義目的	自然界では、さまざまな時間空間スケールでエネルギーと物質が循環していることを認識することが基本である。本講義では、まず、人類が地球や宇宙をどのようにして知り、現代の地球観、宇宙観に至ったのか概観する。そして、地球表層の大気と水が太陽と地球のエネルギーを駆動源として循環しており、その過程が天気、風、雨、川などとして身近に現れていることを学習する。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙が膨張していることがどのようにして明らかにされたのかを知っている。 ・宇宙のはじまり、物質の生成、宇宙の歴史の概要を知っている。 ・地球の歴史を通じて、地球上の大気と水がどのようにして形成されたのかを知っている。 ・地球表層の温度はどのようにして決まるのかを理解している。 ・大気と水が地球規模でどのように循環しているのかを理解している。 ・身近におこっている気象・水循環のメカニズムの概要を理解している。 ・温暖化の問題など、地球環境について考えることができるようになっている。
キーワード	宇宙, 太陽系, 太陽放射, 大気の循環, 水の循環, 気象, 地球環境, 地球温暖化
成績評価(合格基準60)	毎回講義の小レポート(50点)と最終評価試験(50点)により評価する。

関連科目	身近な物理学 と身近な化学 を受講していることが望ましい。
教科書	なし
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
注意・備考	提出課題については、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。 講義資料は講義開始時に配布する。 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物地球学科 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	岡山学 (VOD) B (FB24Z010)
英文科目名	Okayamaology B
担当教員名	亀田修一(かめだしゅういち),白石純(しらいしじゅん),大藪亮(おおやぶあきら),波田善夫(はたよしお),西戸裕嗣(にしどひろつぐ),北川文夫(きたがわふみお),志野敏夫(しのとしお),能美洋介(のうみようすけ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「志呂神社と誕生寺川流域」というテーマで、志野が旭川中流域の建部地域にある志呂神社と誕生寺川流域について説明する。(担当:志野 敏夫) (志野 敏夫)
2回	「岡山平野の地形」というテーマで、能美が旭川下流域の岡山平野の地形について説明する。(担当:能美 洋介) (能美 洋介)
3回	「岡山市北部の20年間の森林植生変化」というテーマで、波田と太田が旭川下流域の岡山市北部の20年間分の森林植生変化について説明する。(担当:波田 善夫) (波田 善夫)
4回	「旭川下流域における河原の植物の変遷」というテーマで、波田が旭川下流域の河原の植物の変遷について説明する。(担当:波田 善夫) (波田 善夫)
5回	「旭川下流域の古墳と寺院」というテーマで、亀田が旭川下流域の古墳と寺院について説明する。(担当:亀田 修一) (亀田 修一)
6回	「古写真DBで見る昭和9年台風被害」というテーマで、北川が古写真に残された昭和9年の旭川下流域の台風被害について説明する。(担当:北川 文夫) (北川 文夫)
7回	「岡山市および近郊におけるまちづくりの実際」というテーマで、大藪がまちづくりの理論とその実践について説明する。(担当:大藪 亮) (大藪 亮)
8回	「岡山県における産業集積」というテーマで、大藪が産業集積の現状やその分析枠組みについて説明する。(担当:大藪 亮) (大藪 亮)

回数	準備学習
1回	・書籍やWebを用いて志呂神社に関して調べておくこと。 ・受講後、次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは11月29日。 「講義内容をもとに、志呂神社についてまとめてください」 (標準学習時間180分)
2回	・書籍やWebを用いて岡山平野に関して調べておくこと ・受講後、次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは12月13日。 「講義内容をもとに、高島地域を中心とした平野が扇状地から成り立っていることは、どのような地象により認識することができるか、具体的な例を挙げながらレポートにまとめてください」 (標準学習時間180分)
3回	・書籍やWebを用いて岡山市の森林に関して調べておくこと。 ・受講後次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは12月20日。

	「講義内容をもとに、岡山市北部の20年間の森林植生変化についてまとめてください」 (標準学習時間180分)
4回	・書籍やWebを用いて旭川下流域の河原の植物に関して調べておくこと。 ・受講後、次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは12月27日。 「講義内容をもとに、旭川下流域の河原の植生変遷についてまとめてください」 (標準学習時間180分)
5回	・書籍やWebを用いて旭川下流域の古墳や古代寺院に関して調べておくこと。 ・受講後、次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは1月7日。 講義内容を踏まえて、「旭川下流域の古墳と寺院」についてまとめてください。 (標準学習時間180分)
6回	・書籍やWebを用いて昭和9年の室戸台風に関して調べておくこと。 ・受講後、次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは1月24日。 「講義内容をもとに、写真で過去の事件(台風被害)を見ることの特徴を文字の資料との比較も含めてまとめてください」 (標準学習時間180分)
7回	・書籍やWebを用いて各市町村などが実施している「まちづくり」に関して調べておくこと。 ・受講後、次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは2月4日。 「講義内容をもとに、まちづくりに対する3つの視点についてまとめ、それぞれを説明しなさい」 (標準学習時間180分)
8回	・書籍やWebを用いて岡山県内の産業集積に関して調べておくこと。 ・受講後、次のテーマでレポート(A4、1~2枚)を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは2月7日。 「講義内容をもとに、産業集積の類型について具体的に説明しなさい」 (標準学習時間180分)

講義目的	本講義では、岡山の自然・歴史・文化・社会などいろいろなことごとについて、地球科学・植物学・考古学・歴史学・情報科学・社会科学など多様な分野から検討する。 それぞれの講義は独立しているのであるが、これらの内容をいくつか組み合わせて、また総合的に理解することによって、多様で深みのある岡山が見えてくるものと考えている。これらの講義を通して岡山の自然・歴史・文化・社会について、知ってほしい。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与、Bにある程度関与する)
達成目標	1. 岡山の自然科学的特徴を記述できる。 2. 岡山を考古学・歴史学の観点から見た要点を記述できる。 3. 岡山の文化的・社会的特徴を記述できる。 4. 地域を調べる分析手法について、その成果と解釈を記述できる。 5. 岡山県下の自然と文化のつながりを記述することができる。
キーワード	岡山、地域学、旭川、蒜山、真庭、岡山平野、地形、植生、歴史、考古、文化、情報、まちづくり、産業集積
成績評価(合格基準60)	各講義(8回分)に対するレポートの平均点数が60点以上を合格とする。
関連科目	特になし。
教科書	特になし。
参考書	岡山理科大学『岡山学』研究会編『旭川を科学する』Part1~4(シリ-ズ『岡山学』3~6)、吉備人出版
連絡先	志野敏夫研究室：A1号館6階
注意・備考	・全講義(15回分)のレポートによって単位を認定するので、きちんと受講して、それぞれの回の「準備学習」欄に明記しているテーマで、締切日までにレポートを書いて提出すること。VODを各人がきちんと視聴したかどうかもチェックする。 ・レポートには自分の「学生番号」「名前」のほか、「授業名」、「講義回数」、および「各講義担当教員名」を明記すること。 ・各レポートについて、各々の締め切り後に、それぞれの採点基準などの解説を掲示することによりフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	芸術B (FB24Z020)
英文科目名	Arts B
担当教員名	柳沢秀行* (やなぎさわひでゆき*), 四角隆二* (しかくりゅうじ*), 橋本龍* (はしもとりよう*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	美術館論：美術館の社会における機能を説明した後、岡山県域の美術館、博物館についての情報提供を主にしつつ、岡山県域の文化的土壌についての講義 (全教員)
2回	2～4回は、集中講義形式にて大原美術館（倉敷市）で実施。 大原美術館の歴史を紐解きつつ、美術館の社会における機能の具体例を知る。 (全教員)
3回	2～4回は、集中講義形式にて大原美術館（倉敷市）で実施。 大原美術館の作品鑑賞を主としながら、西洋と日本の近代美術史概要を知る。 (全教員)
4回	2～4回は、集中講義形式にて大原美術館（倉敷市）で実施。 作品へのアプローチについての講義と実践活動。 (全教員)
5回	5～6回は、集中講義形式にて岡山市立オリエント美術館で実施。 地方都市にオリエント美術館が存在する理由と意義、果たすべき役割について学ぶ。 (全教員)
6回	5～6回は、集中講義形式にて岡山市立オリエント美術館で実施。 オリエント考古美術品鑑賞を主としながら、「文明とは何か」「人類文化の多様性」について学ぶ。 (全教員)
7回	7～8回は、集中講義形式にて林原美術館で実施。 林原美術館において、刀剣、武具、甲冑、調度品、絵画、古文書などを鑑賞する。 林原美術館設立の経緯とコレクションの概要を解説し、合わせて開催中の展覧会を鑑賞する。 (全教員)
8回	7～8回は、集中講義形式にて林原美術館で実施。 林原美術館を代表するコレクションについての特別鑑賞を行い、幅広い作品を鑑賞する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	岡山県にはどのような美術館があるか、あなたの故郷にはどのような美術館があるか、調べてみる こと。(標準学習時間60分)
2回	大原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。(標準学習時間60分)
3回	大原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。(標準学習時間120分)
4回	大原美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	オリエント美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。オリエント美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特にオリエント関係の展示が中心であるので、オリエントの地理的環境や自然環境、古代オリエント文明に関する知識を充実させておくこと。 (標準学習時間120分)

6回	オリент美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。オリент美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特にオリент関係の展示が中心であるので、オリエンの地理的環境や自然環境、古代オリエン文明に関する知識を充実させておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	林原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。林原美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特に旧岡山藩主池田家にゆかりのある展示物が多いことから、池田家関係の基礎知識を充実させておくこと。(標準学習時間120分)
8回	林原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。林原美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特に旧岡山藩主池田家にゆかりのある展示物が多いことから、池田家関係の基礎知識を充実させておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	美術館で絵画を鑑賞した経験を持つ人は少ないかもしれない。美術館に行ったことがあっても、じっくりと味わって鑑賞できた人はさらに少ないかもしれない。美術館での鑑賞が通り一遍になってしまうのは、作家であるとか、制作に至った心理状態とか、社会的背景などを知らないからではないだろうか。 今回の一連の講義は、学芸員の解説のもと、展示物を鑑賞することとする。この貴重な体験をきっかけとして芸術の鑑賞の仕方を学んで楽しさを知り、今後の生活に資することを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高いレベルの絵画・工芸品などを知的レベルの高い状況で鑑賞した経験を持つこと。 ・絵画、工芸品などと作家の人格、思考、成長、社会的背景などと関連させて鑑賞することができるようになること。 ・芸術の楽しさを知ること。
キーワード	美術館、絵画、工芸品、鑑賞、学芸員
成績評価(合格基準60)	訪問した美術館において、もっとも感銘した内容についてテーマを設定し、これに関するレポートの提出によって評価する。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	現地集合、現地解散となるので講義開始時刻まで確実に集合できるよう、時間的に十分な余裕をもって行動すること。経路に関しては、可能な限り公共交通機関を使用することとし、交通事故などに気をつけること。
試験実施	実施しない

科目名	福祉環境論 B (FB24Z030)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	土橋恵美子* (つちはしえみこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：後期講義の目的、進め方について説明する。 手話について実技(入門)をとおして説明する。
2回	手話について実技(入門)をとおして説明する
3回	ノートテイクについて実技をとおして説明する。
4回	パソコン通訳について実技をとおして説明する。
5回	障がいへの理解に関する映像を視聴する。
6回	支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。
7回	障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。
8回	第1回から第7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。 指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	手話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えること。(標準学習時間120分)
4回	パソコン通訳(パソコンテイク)について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	障がいへの理解を新聞記事や番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)をとおして考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	支援すること・されることについて考えること。(標準学習時間120分)
7回	合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	「聴覚障がい者への支援方法」について学び、聴覚障がい者に関する法律や当事者の声を通して『知る』ことにより、バリアがどこにあるかを感じとり、合理的配慮の視点から考察することを目的とする。(教養教育センター 単位認定の方針Dにもっとも強く関与。Cに強く関与。)
達成目標	新聞記事、番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)、書籍などから障がいとは何か、バリアとは何かを『理解する』ことができる。 聴覚障がい者への支援方法を、実技を通して『知り』、支援する・される間にあるバリアを『わかり』、当事者が求める支援について、合理的配慮の視点から理論を用いて説明できる。 能動的な支援として「かわる・かえる」過程を体感し、障がい者支援について、具体案を提示し、その効果を説明することができる。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
成績評価(合格基準)	60 グループワーク(ディスカッション)への貢献40%、講義最終日の試験(最終評価試験)60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	健康の科学
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
参考書	適宜紹介する
連絡先	
注意・備考	・障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。 ・この講義はアクティブラーニングを重視し、グループワークおよびグループディスカッションを行う。
試験実施	実施する

科目名	地域フィールドスタディ B (FB24Z040)
英文科目名	Community Field Study B
担当教員名	西村次郎(にしむらじろう), 松尾美香(まつおみか), 松下尚史(まつしたひさし)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス 講義の概要、進め方、評価方法等の説明をする。 (全教員)
2回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク(瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 牛窓町の自然、歴史文化、産業等、多角的側面から視察する。 (全教員)
3回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク(瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 課題や問題を発見し、その中からテーマ設定を行い、研究の目的を明確にする。 (全教員)
4回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク(瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 課題解決を行うための方法を検討する。 (全教員)
5回	地域創生をテーマとした地域研究(瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 課題解決において、関連する情報を探し集め整理する。 (全教員)
6回	課題研究 (大学) プレゼンテーション資料を作成する。 (全教員)
7回	課題研究発表と振り返り(大学) 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを行う。 (全教員)
8回	課題研究発表と振り返り(大学) 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。また、これまで学んだことを復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、課題解決に向けて、工程表の点検を行っておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、牛窓地域の課題や問題について、整理しておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、課題解決を行うための方法を考えて整理しておくこと(標準学修時間120分)
5回	予習として、目的を明確にし、論理的に内容をまとめておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、パソコンの操作(パワーポイント等)に慣れておくこと。わからない点は、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	予習として、決められた手順と制限時間にしがって、発表ができるようにしておくこと。(標準学修時間120分)
8回	予習として決められた手順と制限時間にしがって、発表ができるようにしておくこと。(標準学修時間120分)

講義目的	瀬戸内市牛窓町地域を対象として、フィールドワークを行う。地域創生をテーマとし視察や調査を通じて、学生自らが課題や問題を発見することから始める。グループでの活動が中心になるため、チーム作りを行うためにシーカヤックを活用する。また、牛窓地域の自然を実体験する機会にもなる。チーム作りの後に、チーム毎にテーマを設定し、課題解決にあたる。このようなアクティブ・ラーニングにより、主体的に学ぶこと、課題解決能力を育成する。最後にチームで研究した内
------	--

	容をプレゼンテーションする。これは、自分の考えや主張を伝える機会になる。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	主体的な学びへのレディネス（態勢づくり）を整えることができる（E）。地域の活性化に向けて、調査対象に即した課題設定ができる（E）。課題を解決するために、フィールドワーク、文献や統計等の二次資料を用いて分析できる（E）。独自の考察を加えたレポート作成およびプレゼンテーション発表ができる（E）。調査研究や課題解決において他者との協働ができる（E）。地域の生涯学習社会の構築に寄与できること（E）。
キーワード	地域、シーカヤック、コミュニケーション、問題解決、チームワーク
成績評価（合格基準60	課題への取り組み（10%）現地実習（30%）レポート（30%）課題研究発表（30%）
関連科目	学びの基礎論A・B、地域フィールドスタディA、文章表現法A・B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室：jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp 松下（尚）研究室：hisashi@are.ous.ac.jp
注意・備考	・本科目の受講は「学びの基礎論A・B」単位修得者に限る。・「地域フィールドスタディA」の受講をしておくことが望ましい。・本科目の実習費用については自己負担になる。詳細は初回の講義時に説明する。・実習の日程および内容は関係者等の調整により、変更する可能性がある。・提出課題については講義においてフィードバックする。・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。・この授業ではアクティブラーニングの一端としてグループディスカッションを行う。・手中講義で、実習は岡山県瀬戸内市牛窓町で行う。
試験実施	実施しない

科目名	文学B (FV24C110)
英文科目名	Literature B
担当教員名	大西好幸* (おおにしよしゆき*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本近代文学の展開を概説する。
2回	近代文学前期(幕開け)として啓蒙主義、写実主義、擬古典主義を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト 近代文学前期(試み)として浪漫主義、自然主義を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト 近代文学前期(確立)として反自然主義、新現実主義を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト 近代文学後期(脈流)としてプロレタリア文学、新感覚派、「文学界」を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト 近代文学後期(再生)として無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代を取り上げ、解説する。
7回	復習小テスト 近代の韻文として近代詩、近代俳句・短歌を取り上げ、解説する。
8回	愛媛に関する文学作品を調べておくこと。これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。 【標準学習時間180分】

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。近代文学作品の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間60分】
2回	前回の復習をしておくこと。 教科書「啓蒙主義、写実主義、擬古典主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
3回	前回の復習をしておくこと。 教科書「浪漫主義、自然主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
4回	前回の復習をしておくこと。 教科書「反自然主義、新現実主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
5回	前回の復習をしておくこと。教科書「プロレタリア文学、新感覚派、『文学界』」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
6回	前回の復習をしておくこと。教科書「無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
7回	前回の復習をしておくこと。教科書「近代詩、近代俳句・短歌」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。文学Bは近代以降の文学作品を対象とし、「文学A」に引き続き、風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた近代人の思い、心の動き方、近現代社会での人間模様などを見てゆきたい。 (単位認定の方針Bに強く関与する)
達成目標	(1) 日本近代文学の基礎的な知識を身につける。 (2) 古典文学との関係や西欧文学からの影響について考察し、近代文学の特質を理解する。 (3) 時代背景を手掛かりとして、作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。
キーワード	写実主義、擬古典主義、浪漫主義、自然主義、反自然主義、プロレタリア文学、新感覚派、無頼派、戦後派、近代詩、近代短歌・俳句、日本文学史
成績評価(合格基準60%)	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	「文学A」を受講していることが望ましい。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版 / 兵庫県高等学校教育研究会国語部会編 / 京都書房 / ISBN978-4-7637-2204-1

	(第1回目の授業で紹介する) プリントを適宜配布する。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	日本史 B (FV24C120)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	白石成二* (しらいしせいじ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自己紹介を行う。日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで、授業の進め方について説明する。その後、奈良時代末の称徳・道鏡政権の時代の政変について確認する。その時代、政治は混迷を極めるが、その原因・背景を確認するとともに、この称徳天皇をもって古代の女帝の歴史に幕を下ろすことになったのはなぜかについて検討する。
2回	桓武天皇の登場のきっかけは父光仁天皇が即位したことであった。政権を掌握するうえで障壁となる勢力を排除していく過程について説明する。桓武天皇の大きな功績は、長岡京・平安京遷都（造都）と東北地方の蝦夷の征圧（征夷）であったが、その二大政策をなぜ実行する必要があったのかについて考える。天皇の天武系の皇統からの転換という意識、渡来系氏族との強い結びつき、怨霊思想などが背景にあったことを説明する。さらにこの桓武天皇の子孫たちが後に「桓武平氏」となっていたのかについても検討する。
3回	嵯峨天皇の時代は「弘仁の治」と呼ばれ、我が国で唐風化が最も盛んだった時代とされる。その推進役が文人官僚であったことを確認する。そして彼らの知識は遣唐使によって多くもたらされたものであったが、その遣唐使の軌跡を辿ることによって当時の日本外交のあり方を検討する。さらに遣唐使の留学生であった最澄と空海を取り上げ、その仏教の国際性ととともに、その後の日本宗教界に与えた影響について説明する。さらに空海信仰のあらわれとして四国に根付いている四国遍路の現代的意味についても考える。
4回	文人官僚の頂点を極めた菅原道真と藤原氏との対立・抗争の原因や背景について触れ、道真が猛威をふるう怨霊となり、怨霊思想のピークを迎える。それが今日では「学問の神様」となって厚い信仰を受けるようになったのはなぜかを考える。次に平将門と藤原純友の乱を取り上げ、「承平・天慶の乱」から「天慶の乱」への名称変更について説明する。またこの戦乱が、その後の時代にどのような影響をもたらしたか、さらに勇猛さの象徴とされる武士の実像についても検討する。
5回	平安王朝、摂関政治の全盛期を演出した藤原道長の政権獲得の過程にふれるとともに、源氏の棟梁源頼光や紫式部の父藤原為時らを取り上げ、道長政権を支えたのは受領階級の人々であったことを確認する。道長の「御堂関白記」や藤原実資の「小右記」の記事を取り上げ、当時の貴族たちの実態について説明する。そして当時の末法思想や浄土教の流布の様相を具体的に上げるとともに、安倍晴明に代表される陰陽師たちの実像に迫る。その陰陽道は平安時代だけでなく、今日の社会にも根強く残存していることを確認する。
6回	摂関政治の文化は国風文化といわれる。その国風文化の具体的に見ていくとともに「国風」の内容についても考える。紫式部の「源氏物語」を例に取り上げ、その中に中国文化が色濃く残されており、東アジアの交流の中で形成された国際性豊かな作品であることを確認する。その一方で、上級貴族たちが誰一人として外国に赴くことがなかったように、我が国の鎖国的体質についても説明する。また当時の女流文学の作品を残した女性のおもむきは受領層の出身者であったが、それはなぜなのかを検討する。
7回	貴族の時代から武士の時代への大きな転換の時代にいち早く登場した源氏の台頭の経過について触れ、一方、平氏は源氏に遅れをとったものの、やがて源氏を凌駕し、院政を支える重要な軍事力となっていた。その両者が入り乱れて戦った保元の乱や、その後の平治の乱について具体的に説明する。そしてこの戦乱を経過することによって傭兵的存在であった武士が政権の帰趨を決定することが明らかになり、その結果として平清盛による平氏政権が成立する。この保元・平治の乱をもって中世とするのか、また平氏政権は武家政権であったのかという問題についても検討する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	孝謙・称徳天皇と道鏡政権については瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、橋本治『日本の女帝の物語』（集英社新書）、北山茂夫『女帝と道鏡』（中公新書）、その時代の政変については倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）、遠山美都男『古代の皇位継承』（吉川弘文館）などがある。どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間120分）
2回	桓武天皇については、井上満郎『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）、高橋昌明『京都「千年の都」の

	歴史』(岩波新書)、吉田勲『古代の都はどうつくられたか』(吉川弘文館)、山田雄司『跋扈する怨霊』(吉川弘文館)、蝦夷との戦いについては、熊谷公男『古代の蝦夷と城柵』(吉川弘文館)、高橋崇『坂上田村麻呂』(吉川弘文館)、樋口知志『阿弓流為』(ミネルヴァ書房)、高橋富雄『辺境』(教育社)などがある。図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	嵯峨朝の政治については佐々木恵介『平安京の時代』(吉川弘文館)、吉川真司『平安京』(吉川弘文館)、遣唐使については古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』(吉川弘文館)、最澄と空海については、篠原資明『空海と日本の思想』(岩波新書)、木内堯大・多田孝正『最澄』(創元社)、後藤昭雄『天台仏教と平安朝文人』(吉川弘文館)、速水侑『呪術宗教の世界』(塙新書)、星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』(吉川弘文館)などがある。図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	菅原道真については坂本太郎『菅原道真』(吉川弘文館)、将門・純友については村上春樹『将門記』(山川出版社)、樋口州男『将門伝説の歴史』(吉川弘文館)、松原弘宣『藤原純友』(吉川弘文館)、下向井龍彦『純友追討記』(山川出版社)、森公章『古代豪族と武士の誕生』(吉川弘文館)などがある。図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	藤原道長と受領については、北山茂夫『藤原道長』(岩波新書)、山中裕『藤原道長』(吉川弘文館)、臈谷寿『藤原道長』(ミネルヴァ書房)、倉本一宏『藤原道長の日常生活』(講談社現代新書)、同『藤原道長の権力と欲望』(文春新書)、古瀬奈津子『摂関政治』(岩波新書)、森田悌『受領』(教育社)、繁田信一『安倍清明』(吉川弘文館)、元木泰雄『源満仲・頼光』(ミネルヴァ書房)などがある。図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	平安期の女流文学については、清水好子『紫式部』(岩波新書)、秋山虔『源氏物語』(岩波新書)、臈谷寿『源氏物語の風景』(吉川弘文館)、瀧浪貞子『源氏物語を読む』(吉川弘文館)、岸上慎二『清少納言』(吉川弘文館)、山中裕『和泉式部』(吉川弘文館)、王朝文化については、保立道久『平安王朝』(岩波新書)、木村朗子『女たちの平安宮廷』(講談社選書)、服藤早苗『平安朝女性のライフサイクル』(吉川弘文館)などがある。図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	武士の成立・台頭については、五味文彦『中世社会のはじまり』(岩波新書)、同『殺生と信仰 - 武士を探る』、元木泰雄『武士の成立』(吉川弘文館)、野口実『列島を翔る平安武士』(吉川弘文館)、保元・平治の乱から平氏政権の成立については、曾我良成『物語がつくった驕れる平家』(臨川書店)、元木泰雄『源頼義』(吉川弘文館)、五味文彦『平清盛』(吉川弘文館)などがある。図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間120分)

講義目的	「日本史A」に続き、日本列島内における近世以降の歴史を扱い、武士の台頭、明治維新など近現代へとつながる時系列の中で日本がどのような社会を形成してきたか、また文化や信仰・宗教がどのように変遷したかに関して講義を展開する。そのプロセスで歴史的な事象から得られる情報について、批判、そして客観的に再構築できる力を得ることが講義の目的である。諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 (単位認定の方針Bに強く関与する)
達成目標	我が国の古代から武家政権の成立、中世の幕開けまでを取り上げる。その時代の諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を習得する。
キーワード	「奈良時代」「平安時代」「最澄・空海」「平将門・藤原純友」「摂関政治」「武士」「平安文学」「国風文化」「清和源氏」「桓武平氏」「保元・平治の乱」「平氏政権」
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価する。
関連科目	日本史A
教科書	使用しない。授業の進行過程で資料・プリント等を配布する。
参考書	日本社会の歴史(上)/網野善彦/岩波新書/ISBN4004305004:日本社会の歴史(中)/網野善彦/岩波新書/ISBN4004305012:日本社会の歴史(下)/網野善彦/岩波新書/ISBN4004305020:教養としての日本史(上)(下)/白石成二/創風社/ISBN:978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
注意・備考	(1)第1回目から毎回出席をとるので、十分注意すること。(2)ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。(3)これら証明するものや、活動報告書等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
試験実施	実施する

科目名	外国史B (FV24C130)
英文科目名	World History B
担当教員名	松澤仁志* (まつざわひとし*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2回	近代ヨーロッパ世界の成立について概観する。
3回	近代国民国家の発展について説明する。
4回	アメリカ合衆国の建国と発展について説明する。
5回	帝国主義とアジアの民族運動について説明する。
6回	二つの世界大戦の背景と展開について説明する。
7回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと(180分)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと(60分)
2回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと(120分)
3回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと(120分)
4回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと(120分)
5回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと(120分)
6回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと(120分)
7回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと(120分)

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを「外国史A」に続いて考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代社会は19世紀のヨーロッパによる世界侵略がベースとなって形作られていることは確かであるが、その動きに対して世界の各地域の人々がどのように対応してきたのが世界の現代史を決定づけたともいえよう。本講義では、近代以降の歴史の流れの中で、世界がお互いにどういう形で影響しあってきたのかを中心に解説する。 (単位認定の方針Bに強く関与する)
達成目標	近代から現代までの世界史の流れを概観するとともに、歴史的考察力、判断力、及び、未来を展望する力を培う。
キーワード	
成績評価(合格基準)	60 講義中の課題(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	「外国史A」を履修していることが望ましい。
教科書	市民のための世界史 / 桃木 至朗他 / 大阪大学出版会 / ISBN487259469X : ニュース ページ世界史詳覧 / / 浜島書店 / ISBN4834320251
参考書	
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	政治学 B (FV24C140)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 地域社会、国際社会について概説する。
2 回	地方分権 - 地方自治 - について講義する。
3 回	主要国の政治体制 - 議院内閣制と大統領制 - について講義する。
4 回	国境を超える政治 - 国際政治のアクター - について講義する。
5 回	冷戦の終わりからテロとの戦いへについて講義する。
6 回	自由民主主義体制の諸原理 (1) - 日本国憲法における自由 - について講義する。
7 回	自由民主主義体制の諸原理 (2) - 日本国憲法における平等 - について講義する。
8 回	これまで扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義内容を把握しておくこと。
2 回	第 5 章を読んでおく。
3 回	議院内閣制と大統領制を調べておく。
4 回	第 1 2 章を読んでおく。
5 回	第 1 0 章を読んでおく。
6 回	日本国憲法における自由を調べておく。
7 回	日本国憲法における平等を調べておく。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、「政治学A」に引き続き、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治の意味をさらに深めて考えたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Bでは、主として、＜政治の仕組み＞及び＜政治と世界＞について学ぶ。
達成目標	本講義の目標は、現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国際社会という視点から政治を理解し基本的な用語を説明できること、また新聞やニュースの記事を正しく理解できることである。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、地方分権、政治体制、議院内閣制、大統領制、国際政治、自由民主主義、冷戦、テロ
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により評価する。
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、経済学AB、国際関係論AB
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】 / 真淵・久米・北山著 / 有斐閣アルマ / 978-4-641123687
参考書	NEW教科書シリーズ政治学 / 山田光矢編 / 弘文堂 / 978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	経済学 B (FV24C150)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山中高光 * (やまなかたかみつ *)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	[オリエンテーション] [マクロ経済をとらえる枠組み]GDP統計、三面等価、物価、経済成長、寄与度、成長方程式、総需要、総供給などマクロ経済の動きをとらえる枠組みを説明する。
2回	[有効需要と乗数メカニズム]財市場の均衡、短期のGDPの決定メカニズム、有効需要の原理、乗数メカニズムについて説明する。
3回	[貨幣と金融]貨幣の機能、日本のマネーストック、金融システム、信用創造、貨幣市場の均衡、金融政策について説明する。
4回	[マクロ経済政策]財市場と貨幣市場(資産市場)の同時均衡、利子率とGDPの決定、財政政策・金融政策の効果、フィリップス曲線について説明する。
5回	[インフレ・デフレと失業]インフレーション、デフレーション、失業、について説明する。
6回	[経済成長と経済発展]経済成長のメカニズム、ハロッド=ドーマーの成長モデル。新古典派の成長理論、内省的経済成長モデルについて説明する。
7回	[国際経済学]比較優位、自由貿易、国際収支、為替レート、マンデル=フレミングモデルについて説明する。
8回	[まとめ]1回から7回までに学んだマクロ経済学の復習とより進んだ学習のために若干のガイダンスを行う。 後半45分で試験を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
2回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
3回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
4回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
5回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
6回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
7回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
8回	すべての講義を復習しておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Bではその中でも特に市場について講義する。また、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論の概略についても講義する。 (この講義は教養教育センター単位認定の方針Cに強く関与する)
達成目標	1. 基本的な経済理論を理解できる。 2. 様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	マクロ経済学、GDP統計、乗数モデル、IS-LM分析、マクロ経済政策、財政政策、金融政策、インフレ・デフレ、失業、経済成長、国際経済学
成績評価(合格基準)	60 最終評価試験100%

関連科目	経済学 A
教科書	入門経済学第4版 / 伊東元重 / 日本評論社 / ISBN 978-4-535-55817-5
参考書	経済学・入門 第3版 / 塩澤 修平 / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-22004-1 ：マンキュー入門経済学 第2版 / マンキュー / 東洋経済新報社 / ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
注意・備考	講義では、微分を利用する。 試験形態は計算問題も含め筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	国際関係論 B (FV24D110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	国際連盟における安全保障制度について学ぶ。国際連盟が成立する前と後とでは、安全保障の仕組みがどのように変わったのか、また、国際連盟における安全保障制度にはどのような問題があったのかについて学ぶ。
2回	国際連合における安全保障制度について学ぶ。国際連合における安全保障制度の内容について学んだうえで、その問題点およびそれへの対処について学ぶ。
3回	平和維持活動について学ぶ。平和維持活動とは何か、これまでどのような平和維持活動が行われてきたのか、平和維持活動の法的性質、平和維持活動に対する日本のかかわりについて学ぶ。
4回	自衛権について学ぶ。自衛権とは何か、個別的自衛権と集団的自衛権との違い、自衛権の行使要件について学ぶ。
5回	国家責任の成立要件について学ぶ。国家はどのような場合にその行為についての責任を負わなければならないのかについて学ぶ。
6回	国家責任の追及要件および解除について学ぶ。国家責任を追及するのは誰か、国家責任を負う国はどのような義務を果たさなければならないのかについて学ぶ。
7回	国際司法裁判所について学ぶ。国際司法裁判所の組織、管轄、判決、勧告的意見について学ぶ。
8回	裁判以外の紛争の平和的解決方法について学ぶ。交渉、仲介、周旋、審査、調停について学ぶ。そのうえで最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	国際連盟がどのような組織であったかについて調べてみる。
2回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
3回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
4回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
5回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。

6回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
7回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
8回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際紛争の平和的解決や国際安全保障において国際機構が果たしている役割を概観することにより、現在の国際社会の基本的な仕組みや活動内容を解説する。また今後日本が国際社会において貢献できる役割についても考えてみたい。
達成目標	国際連合の安全保障制度について説明できるようになること。 平和維持活動について説明できるようになること。 自衛権について説明できるようになること。 任について説明できるようになること。 国際司法裁判所の役割について説明できるようになること。
キーワード	国際連合，安全保障
成績評価（合格基準60	各回に実施する基礎力テスト（比率10%）および応用力テスト（比率40%），最終評価試験（比率50%）により評価する。100点満点に換算し，60点以上で合格とする。
関連科目	国際社会の特徴や国際連合の概要などの国際関係論の基礎事項は国際関係論Aで講義するので，それを受講してからこの講義を受講するのが望ましい。
教科書	講義で資料を配布する。
参考書	国際連合 - 軌跡と展望 / 明石康 / 岩波書店 / 978-4004310525

国家責

連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	教養演習 B (FV24D120)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生自らが選定した新聞記事を資料としてグループワーク形式の発表・討論を行う。(1)
3 回	受講生自らが選定した新聞記事を資料としてグループワーク形式の発表・討論を行う。(2)
4 回	受講生自らが選定した新聞記事を資料としてグループワーク形式の発表・討論を行う。(3)
5 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
6 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
7 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
8 回	これまで演習で実施したグループワークと個人発表の講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、発表の進め方を把握しておくこと。
2 回	テーマを選定した者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
3 回	テーマを選定した者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
4 回	テーマを選定した者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
5 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。

6回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
7回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
8回	これまでの演習で学んだことを整理する。

講義目的	主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。「教養演習A」に続き、さらなる思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Bでは、受講生自らが作成した資料に基づく発表および討論を中心とする。
達成目標	時事問題について、受講者自らがグループワークを通してディスカッションを実施することができること。 受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）について、簡単な個人発表を通して自分の意見を発表できること。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、プレゼンテーション、ディスカッション、政治、経済、文化、国際問題
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100%)により評価する。
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB
教科書	使用しない。
参考書	必要に応じて適宜指示する。

連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論 B (FV24D130)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス 自己実現と学び 人生の一回性や自己実現・至高経験について考察する。
2回	グループ活動によるルール作り グループ活動を活性化し、やる気を持続させる方法について検討する。ブレインストーミング等、グループ活動をよりよいものにするための知識を説明する。
3回	プレゼンテーション技法 プレゼンテーション技術を学び、論理的なまとめ方を説明する。
4回	アイディアの発想法 テーマをもとにKJ法の知識を学び、グループでのプロジェクトを開始する。
5回	岡山理科大学を深く知る(文章の作成) 岡山理科大学の歴史、岡山理科大学の建学の理念、学べる内容、主な就職先について調べて、文章にまとめる。
6回	岡山理科大学を深く知る(スライドの作成) 文章にまとめた内容について、スライドをまとめる。
7回	課題発表と振り返り 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
8回	課題発表と振り返り 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。

回数	準備学習
1回	講義の目的を理解し、シラバスを確認すること。 また、自己実現について考えておくこと。
2回	グループ活動において自分が果たす役割について考えておくこと。
3回	論理的にまとめるために必要な要素は何かを検討しておくこと。
4回	これまでの学びを整理しておくこと。
5回	岡山理科大学について調べてくる。
6回	岡山理科大学について文章でまとめてくること。
7回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるようにしておくこと。
8回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるようにしておくこと。

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得し、活用することである。内容として、「学びの基礎論A」をふまえて チームビルディングの構築 基本的なアカデミック・スキル(文章表現法、プレゼンテーション)を修得する テーマに対して、グループで協同して課題発表を行う 一人ひとりが、グループの発表に対してルーブリックにより評価を行う。アクティブ・ラーニングを行う。
達成目標	グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。

	第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価（合格基準60）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に作成したワークシートの提出（30%） ・レポート（30%） ・課題発表（40%）
関連科目	
教科書	特定の教科書は使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーをしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある
試験実施	実施しない

科目名	心理学 B (FV24F111)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、および心理学で取り扱う、感じる - 動く - 考えるとはなにか？そして自分とはなにか？について概説し、今後の講義方針を説明する
2回	感じる - 知覚、情動/感情、について、概説する
3回	動く - 行動、学習について、概説する
4回	考える - 認知、思考について、概説する
5回	感じる-動く-考える~レスポナント条件づけ、およびオペラント条件づけについて、概説する
6回	自分とは - パーソナリティについて、概説する
7回	今まで学んだ心理学的知見に基づいて、身近な問題に照らし合わせながら、概説する
8回	感じる-動く-考える、とはなにか？そして自分とはなにか？について、前回までの講義内容をおさらいした上で改めて概説し、後半45分で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、「自分が抱いた感情/取った行動/浮かんだ考え」について、数例まとめておく(120分)
2回	日常生活において、ある出来事が起こったときに「自分がどんな感覚および感情を抱いたか」について、数例記録しておく(120分)
3回	日常生活において、ある出来事が起こったときに「自分がどんな行動をしたか」について、数例記録しておく(120分)
4回	日常生活において、ある出来事が起こったときに「思い浮かんだ考え」について、数例記録しておく(120分)
5回	日常生活において、ある出来事が起こる前と起こった後にそれぞれ、抱いた感情/取った行動/浮かんだ考え？について、数例記録しておく(120分)
6回	自分とは何か？自分を理解するとはどういうことなのか？について、自分なりの考えやイメージをまとめておく(120分)
7回	日常生活において、自分が疑問を抱いたり困っていることに対して、今まで学んだ心理学的知見がどのように役立つかを自分なりに考えておく(120分)
8回	これまでの講義内容を振り返り、疑問点を明らかにしておく(120分)

講義目的	現代心理学が明らかにした人間の行動の仕組みに関する研究成果を、特定の学派や立場にかたよらないように体系化して概説する。そして、心理学に関する基本的な知識を理解させ、よりよい人間性の育成を目指す。そのため、心の健全な発達、社会への適応のあり方、人間関係論など、幅広いトピックを扱う。心理学Bでは、動機、感情、パーソナリティについての基本的な知識を理解し、説明できること、また心理学の知見を日常に役立てることを達成目標とする。 (単位認定の方針Bに強く関与する)
達成目標	心理学についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	
成績評価(合格基準60)	講義中の課題(60%) 最終評価試験(40%)
関連科目	心理学A
教科書	使用しない
参考書	講義中に紹介する
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける
注意・備考	講義中の課題については、その講義時間内に解答例を示し、フィードバックを行う
試験実施	実施する

科目名	法学B (FV24F121)
英文科目名	Law B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	民法の基本原則について学ぶ。私的自治の原則とその修正，民法の全体構造について学ぶ。
2回	能力について学ぶ。契約を結ぶことができるのは誰か（権利能力），未成年者のように単独で契約を結ぶことができない者（制限行為能力者）について学ぶ。
3回	意思表示について学ぶ。どうすれば契約が成立するのか，逆にどういう場合に契約が成立しないのかについて学ぶ。
4回	契約に関するルールについて学ぶ。同時履行の抗弁権，危険負担，瑕疵担保責任について学ぶ。
5回	家族法について学ぶ。婚姻の成立要件，離婚の成立要件，相続の方法について学ぶ。
6回	罪刑法定主義について学ぶ。罪刑法定主義の存在意義，具体的内容について学ぶ。
7回	違法性阻却事由について学ぶ。正当行為，正当防衛，緊急避難について学ぶ。
8回	具体的な犯罪について学ぶ。どのような行為が犯罪として定められているのかについて学ぶ。そのうえで総合評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	民法の構造がどのようになっているのかについて調べてみる。
2回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
3回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
4回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
5回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
6回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。

7回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
8回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会のおける問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Bで主として取り扱う分野は「民法」と「刑法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。
達成目標	契約に関するルールを説明できるようになること。 家族法について説明できるようになること。 刑法の基本原則について説明できるようになること。
キーワード	民法, 刑法
成績評価(合格基準60)	各回に実施する基礎力テスト(比率10%)および応用力テスト(比率40%)、最終評価試験(比率50%)により評価する。100点満点に換算し、60点以上で合格とする。
関連科目	法学の基礎についての学習は法学Aで行うので、それを履修した後でこの講義を受講するのが望ましい。
教科書	講義で資料を配布する。
参考書	民法入門(第7版)/川井健/有斐閣/978-4641136250: 刑法入門(岩波新書)/山口厚/岩波書店/978-4004311362
連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FV24F131)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 日本を取り巻く国際情勢を把握することの意義について説明する。
2回	TPPが与える日本社会への影響について解説する。
3回	安全保障法制（集団的自衛権）について解説する。
4回	地球温暖化対策（パリ協定）が抱える諸問題について解説する。
5回	農業改革の現状と課題について解説する。
6回	日本の領土問題について解説する。
7回	EUが抱える諸問題、アジアの政治経済について解説する。
8回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
3回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
4回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
5回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
6回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
7回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、「市民性＝社会参画の権利と義務」「社会的責任」をテーマにして議論する。題材は、女性の社会進出、地球環境、企業の社会的責任、裁判員制度等の現在進行形の世界時事問題である。受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。
達成目標	報道内容をそのまま受け止めるのではなく、自分なりの考えを持って判断できること 国際情勢を踏まえた上で、日本の抱える問題を捉えることができること 問題に対する自分なりの判断を、言葉や文章で表現できることを目標とする。
キーワード	社会問題、時事、TPP、安全保障、集団的自衛権、地球温暖化、農業改革、日本の領土、EU、アジア
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により評価する。
関連科目	社会と人間A、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FV24P111)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 提出課題 「あなたが自慢できること」
2回	何人かの提出課題 を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題 を修正出来るように指導する。 提出課題 「友人から学んだこと」
3回	何人かの提出課題 を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題 を修正出来るように指導する。 提出課題 「今までで最も努力したこと」
4回	何人かの提出課題 を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題 を修正出来るように指導する。 提出課題 「社会人としての責任」
5回	何人かの提出課題 を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題 を修正出来るように指導する。 提出課題 「最近印象に残ったニュースについて」
6回	何人かの提出課題 についてグループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。 提出課題 「男女共同参画社会について」
7回	何人かの提出課題 についてグループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと。 予習：提出課題 の概要を作成する。
2回	提出課題 の完成文を作成する(次回提出)。 提出課題 の概要を作成する。

3回	提出課題 の完成文を作成する(次回提出)。 提出課題 の概要を作成する。
4回	提出課題 の完成文を作成する(次回提出)。 提出課題 の概要を作成する。
5回	提出課題 の完成文を作成する(次回提出)。 提出課題 について調べる。
6回	提出課題 の完成文を作成する(次回提出)。 提出課題 について調べる。
7回	提出課題 の完成文を作成する(次回提出)。 これまでの講義内容を振り返り、文章作成のポイントを整理する。

講義目的	本講義の目標は、文章に対する苦手意識をさらに克服できるよう、ピアレビューやグループワークを行う。このとき、友人のレポートを読んだり、互いにコメントしあうことで、切磋琢磨しながら、学ぶことになる。また、レポート作成のスキルを高めるため、1200字程度の学術的なレポートを課題にだし、その完成をとおして、文章力を向上させる。他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。
達成目標	個々の文章の条件に合わせた文章表現ができること 自身の考えの根拠を具体的に示し、説得力のある文章を作成できること グループワークを行うことで、文章を作成することに対する苦手意識を克服すること目標とする。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
成績評価(合格基準60)	課題提出(60%)、最終評価試験(40%)により評価する。
関連科目	文章表現法基礎編、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC

教科書	使用しない。
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FV24P121)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) グループの編成を行う。
2回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を定める。
3回	調べた内容をまとめる 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する。【演習】
4回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。【演習】
5回	よいプレゼンテーションについて考える プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。【演習】
6回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。【演習】
7回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。【演習】
8回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。【演習】

回数	準備学習
1回	講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。
2回	課題を考えてくること。
3回	決めた方法にしたがい、参考文献の収集を行いながら調べ学習を行う。
4回	スライドの構成を考えてくること。
5回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること。
6回	プレゼンテーションの練習を行うこと。
7回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること。
8回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること。

講義目的	本講義の目標は、高度なプレゼンテーションの技法を学び、学会発表や研究発表等が効果的に行えるようにすることである。より実践的にプレゼンテーションのトレーニングを行う。テーマを決め、プレゼンテーションを作成させ、グループ内での発表とクラス全体での発表を組みあわせ、発表の機会を増やす。友人の発表を批判的に見ることで、そこでの気づきを自分のプレゼンテーションに反映させる。
達成目標	特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価(合格基準60)	ワークシートの提出(40%) 発表の様子(40%)

	<p>最終評価試験（20%） 発表評価の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 2回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。</p>
関連科目	
教科書	特定の教科書は使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、プレゼンテーション基礎編Aを履修していることがのぞましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・グループワークがあるため、理由なき欠席は認めない。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FV24W110)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	寺田盛紀 (てらだもりき)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	日本的経営の「三種の神器」とそれと関連した雇用慣行（新規学卒採用と企業内教育）について概説する。
2回	キャリア形成1：日本の企業の従業員採用慣行（「就職」）について、「就社」という概念も活用し、海外の例も参考にして概説する。
3回	キャリア形成2：年功制について様々のデータを参考にして、賃金制度、昇進制度の視点から、講述する。「内部労働市場」という議論も紹介する。
4回	キャリア形成3：終身雇用の歴史的展開、近年の実態について、「新時代の日本の経営」以降の複線型雇用形態との関連で講述する。
5回	キャリア形成4：従業員の意思決定へのコミットメントについて、企業内労使関係（労働組合）、経営参加、各種提案制度、職場懇談会などを取り上げて説明する。
6回	キャリア形成5：企業内キャリアを構築する上で間接的作用を果たしている配置転換、ジョブ・ローテーション/エンリッチメント、企業内等級制度などの人材管理・開発施策について説明する。
7回	キャリア形成6：従業員教育（企業内教育）のシステムの歴史展開、実態について、OJTに焦点をあてて、講述する。
8回	これまでの講義で理解に至らなかった諸点について、総括的な質疑を行う。講義の後半（45分）で、最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	「日本的経営」と用語について適切な倍他を通して調べておくこと。
2回	就職活動のプロセスを取材しておくこと。
3回	父母、きょうだいから「年功制」について、ヒヤリングをしておくこと。
4回	「終身雇用」という用語について簡潔に答えられるようにしておくこと。
5回	経営参加の例を調べておくこと。
6回	近親者から、配置転換の経験を取材しておくこと。
7回	就職後の新人教育についてヒヤリングしておくこと。
8回	講義ノートの再整理、参考文献の主内容をノートに書き取っておき、試験に備えること。また、理解に至らなかった点について質問できるようメモをしておくこと。

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力の習得を促す。また、「経営とは何か」「組織マネジメントの意味」を具体的に理解させることにより、日本のリーディング企業の経営戦略を理解させ「良い会社とは何か」を考えさせる。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業・職業生活の人間形成作用や、キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であることを理解できるようにすること。
キーワード	キャリア形成、労働市場、企業内教育、人間関係
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、総計60%以上で合格とする。
関連科目	キャリア形成講座
教科書	キャリア教育論 - 若者のキャリアと職業観の形成 / 寺田盛紀 / 学文社 / ISBN-13 : 978-4762024757
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座B (FV24W120)
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	少子化対策についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
2回	学校内のいじめについてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
3回	貧困問題についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
4回	安楽死・尊厳死についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
5回	過労死についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
6回	セクシャル・ハラスメントについてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
7回	動物病院における医療ミスについてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
8回	ペットの殺処分についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	少子化の原因と対策について考えてくること。
2回	学校内のいじめの原因と対策について考えてくること。
3回	日本における貧困の原因と対策について考えてくること。
4回	安楽死・尊厳死についてのグループ・ディスカッションを行う。
5回	過労死の原因と対策について考えてくること。
6回	セクシャル・ハラスメントの原因と対策について考えてくること。
7回	動物病院における医療ミスの原因と対策について考えてくること。
8回	ペットの殺処分の現状について調べ、ペットの殺処分に対する自分の考えをまとめてくること。

講義目的	社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)の理解および習得とレベルアップを講座の目的とする。講義はアクティブラーニング手法による実践的演習を軸として展開し、個人ペア チームといった段階的レベルアップワークの徹底により、即戦力人材となるための能力習得を図る。講義は実社会の現場で日々起こるテーマを題材にし、能力の顕在化と実践的応用力の習得も目的とする。加えて、ビジネス心理学、人口問題等の社会動向、国際感覚、CSRマインドなどの現代テーマも盛り込み、課題解決力を身につけるための知識・技術の習得と自らのキャリアをデザインする力の醸成も行う。
達成目標	社会問題に対する解決策を生み出せるようになること。 他人と協力して目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成, グループ・ディスカッション
成績評価(合格基準60)	各回のグループによる発表の評価(比率50%)と個人が提出するレポートの評価(比率50%)を100点満点に換算し、60点以上で合格とする。
関連科目	キャリア形成講座A
教科書	教科書は使用しない。

参考書	ロジカル・ディスカッション チーム思考の整理術 / 堀公俊・加藤彰 / 日本経済新聞出版社 / 978-4532490805
連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	現代人の科学 A (FV24W130)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	柳井徳磨* (やないとくま*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	人はなぜ学ばなくてはならないのか。 基本的な学びの姿勢について、東西の「人類の教師」の学びの仕方を学習する。特に「真理」をどう追求するか？学びは生き方をどう変えるか？などについて考える機会を提示する。
2回	地球・生命について科学：138億年の進化 宇宙の誕生から人類の登場まで、進化の過程および謎について学習する。
3回	日本の自然と風土 以下の日本の風土に関するテーマについて科学的側面を中心に解説する。 風土とは何か？ 日本列島の成り立ち 日本人はどこから来たか？ 縄文人と弥生人 神話と日本人？
4回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本とアジアの風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 アジアの定義と構成要因は？ 東南アジアの国々とその風土の特徴について 東アジアの国々とその風土の特徴について 日本と他のアジアの歴史・分化の比較。 日本人およびその文化の特色は何か
5回	自然環境の病気 以下の地球規模で発生している災害や異常気象について基礎的な概要について科学的側面を含めて解説する。 酸性雨と森林破壊、砂漠化 地球温暖化と気象異常 食糧不足・人口問題
6回	環境・食物に由来する病気 環境およびそこから得られた食物に起因した種々の疾病について概要を学習する。 糖尿病 がん 老化
7回	免疫を高め自分を病気から守る 自分や家族を病気から守るための日常的な習慣改善の重要性を解説する。 免疫の働きと病気 腸と心が免疫を決めている 免疫の鍵をにぎる腸内細菌 温熱の健康に与える効果
8回	免疫を高め自分を病気から守る : 以下に示す発酵食品の効用と腸内環境の改善、さらに健康に及ぼす影響について解説する。 発酵食品の効用 日本および世界の発酵食品の種類と特徴 その他の健康に有効な食物や天然物(ヤーコン、プロポリスなど)

回数	準備学習
1回	齋藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
2回	谷合稔著「地球・生命 - 138億年の進化」を一読し、生命誕生から人類への進化までの歩みを概略理解しておく。特に生命の起源について、概略説明できることは、生物系の学生に不可欠と思われる。
3回	谷合稔著「地球・生命 - 138億年の進化」「日本人のルーツ」の項を一読し、日本人の祖先が日本列島に定着した過程を概略理解しておく。 また、縄文時代が日本人の形成に及ぼした影響についても、片山一道著「骨が語る日本人の歴史」などを参考に概略理解しておく。さらに神話の時代における東アジアの環境について概略理解しておく。
4回	造事務所編「アジア45ヵ国の国民性」、谷沢永一著「歴史が遺してくれた日本人の誇り」。呉善花著「日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか」などを参考に、日本と他のアジア諸国の歴史、文化の差異を自分なりに考えておく。
5回	酸性雨と森林破壊、砂漠化、地球温暖化と気象異常、食糧不足・人口問題などのキーワードを基に、インターネットで現在進行中の地球環境の変動、災害などについて調べておく。
6回	糖尿病、がん、老化などのキーワードを基に、インターネットで疾病概要について調べておく。
7回	藤田紘一郎著「免疫力をアップする科学」に目を通し、免疫と健康の関連を概略解しておく。
8回	藤田紘一郎著「人の命は腸が9割」、小泉武夫著「発酵食品礼賛」を参考に、発酵および発酵食品が動物の健康にいかにか概略を理解しておく。
講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものも見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、いくつかのトピックスを扱いながら現代科学の到達した自然観の全体的な枠組みを伝える。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 本授業の中で、自分たちを取り巻く環境、風土はどのように形成されたのか、また、身近な環境に何が起きているのか、などを理解することで、専門教科への円滑な導入が可能になり、より深い専門知識の理解と習得が期待できる。また、食の健康に及ぼす影響の重要性を理解することで、長い学生生活における学生自身の健康管理の基本的な要点を学習する。最後に、自分の属する社会、日本の立ち位置を学習することで、日本社会の特色と国際社会における長所を認識し、国際社会で生き抜くための拠り所になる「誇り」を身に付けることができる。
達成目標	まず、学ぶという活動の意義を自覚し、あらためて自分たちの住む環境と風土を知ることで、日本人の特性とアジアにおける役割を認識するきっかけとする。 また、自分たちを育ててくれた環境の変化とそれに対する行動の必要性を理解する。さらに、自分の健康を支える食物と腸の役割を腸内環境の観点から認識する。また、伝統的な発酵食品の役割も併せて理解する。人と動物の健康を守るためには、いかに適切な食物を確保する必要があるかを理解しておく。 身近な科学する心の必要性について、自分で考える機会を確保すること。 外国人に日本の風土と歴史を正しく伝えることで、より親密なコミュニケーション力を身に付けさせる。
キーワード	学ぶ、地球、生命、進化、風土、食物、免疫
成績評価（合格基準60）	成績は講義期間中に実施するミニテストあるいはレポートの結果40%、最終評価試験60%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	人はなぜ学ばなければならないか / 齋藤孝 / 実業の日本社 / ISBN978-4-408-45618-8 C0237 : 地球・生命 - 138億年の進化 / 谷合稔 / SBクリエイティブ / ISBN978-4-7973-5101-9 C0240 : 免疫力をアップする科学 / 藤田紘一郎 / ソフトバンク・クリエイティブ / ISBN978-4-408-7973-6414-9 C0247 : 日本人が教えたい新しい世界史 / 宮脇淳子 / 徳間書店 / ISBN978-4-19-864173-3
参考書	骨が語る日本人の歴史 / 片山一道 / 筑摩書房 / ISBN978-4-480-06831-6 C0245 : 神社に秘められた日本史の謎 / 新谷尚紀 / 洋泉社 / ISBN978-4-8003-0536-7 C0221 : 歴史が遺してくれた日本人の誇り / 谷沢永一 / 青春出版社 / ISBN9

	78-4-413-04494-3 C0221：日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか ／呉善花／ワック／ISBN978-4-89831-695-5 C0234：アジア45カ国 の国民性／造事務所／PHP研究所／ISBN978-4-569-76340-8 C0139 ：人の命は腸が9割／藤田紘一郎／ワニ・プラス／ISBN978-4-8470-6067-0 C0247：発酵食品礼賛／小泉武夫／文芸春秋／ISBN978-4-16-660076- 2 C0277：「森友・加計事件」朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪 ／小川榮太郎／飛鳥新聞社／ISBN978-4-86410-574-3
連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施する